

実務経験のある教員等による授業科目一覧【理学療法学科】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
人文科学Ⅰ	2	畑田桜		
人文科学Ⅱ	2	中林紘二		
自然科学Ⅰ	2	早川智之		
自然科学Ⅱ	2	中林紘二		
保健体育理論Ⅰ	2	得本啓次		
保健体育理論Ⅱ	2	得本啓次		
外国語	2	中山大貴	内丸詩帆	
解剖学Ⅰ	2	清水圭悟	畑田桜	
解剖学Ⅱ	2	早川智之	柿原聡隆	
生理学Ⅰ	2	峰剛樹		
生理学Ⅱ	2	峰剛樹		
運動学Ⅰ	2	清水圭悟		
運動学Ⅱ	2	清水圭悟		
人間発達学	2	畑田桜		
臨床心理学	2	手嶋雄太		
病理学	2	峰剛樹		
基礎栄養学	1	長江紀子	中山大貴	
基礎薬理学	1	柿原聡隆		
整形外科Ⅰ	2	岩田芳典	清水圭悟	
整形外科Ⅱ	2	岩田芳典	清水圭悟	
神経内科学Ⅰ	2	早川智之		
神経内科学Ⅱ	2	早川智之		
内科学	1	佐藤史弥		
老年医学	1	柿原聡隆		
小児科学	1	畑田桜		
リハビリテーション医学	1	清水圭悟		
精神医学	1	川原潤基		
リハビリテーション概論	2	中山大貴		
保健医療福祉制度論	2	舳井剛士		
理学療法概論Ⅰ	2	中山大貴		
理学療法概論Ⅱ	2	中山大貴		
臨床運動学	2	早川智之		
理学療法管理学	2	柿原聡隆		
理学療法評価法Ⅰ	2	畑田桜	田中創	藤田慎矢
理学療法評価法Ⅱ	2	畑田桜	田中創	木村尚道
		隅田涼平		
日常生活活動	2	柿原聡隆		
運動療法Ⅰ	2	清水圭悟	綿谷昌明	田中創
		藤田慎矢	柿原聡隆	

実務経験のある教員等による授業科目一覧【理学療法学科】

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
運動療法Ⅱ	2	柿原聡隆	木村 尚道	隅田涼平
		藤田慎矢		
物理療法	2	岩田芳典	中山大貴	
義肢装具学	2	峰剛樹		
各論理学療法Ⅰ	1	中山大貴		
各論理学療法Ⅱ	1	中山大貴		
各論理学療法Ⅲ	1	松坂洋一	阿部光司	長濱久美子
		河野亨太		
各論理学療法Ⅳ	1	隅田涼平	田中創	木村尚道
各論理学療法Ⅴ	1	栗木康介	藤田慎矢	木村尚道
		隅田涼平		
各論理学療法Ⅵ	1	早川智之		
各論理学療法Ⅶ	1	峰剛樹		
各論理学療法Ⅷ	1	峰剛樹	大渡凡人	
各論理学療法Ⅸ	1	中山大貴		
総合理学療法	4	清水圭悟	早川智之	畑田桜
		藤田慎矢	峰剛樹	柿原聡隆
基礎医学演習	2	峰剛樹	柿原聡隆	清水圭悟
		早川智之	中山大貴	畑田桜
臨床医学演習	2	峰剛樹	柿原聡隆	清水圭悟
		早川智之	中山大貴	畑田桜
基礎理学療法演習	2	柿原聡隆	峰剛樹	清水圭悟
		早川智之	中山大貴	畑田桜
臨床理学療法演習	2	柿原聡隆	峰剛樹	清水圭悟
		早川智之	中山大貴	畑田桜
スポーツリハビリテーション	1	藤田慎矢		
地域理学療法学	2	靱井剛士		
生活環境論	1	畑田桜		
見学実習	1	峰剛樹		
評価実習	4	清水圭悟		
総合臨床実習	18	早川智之		
合 計	121			

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 7年度 PT学科					
	○								
授業科目名	人文科学 I			担当者名	井浦 ひとみ、畑田 桜				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1	1			授業時間数	前期 30	後期	前期	後期
授業概要	前半は社会人としての「仕事の取組み・ビジネスマナー・就業のマナー」について勉強します。後半は「自己紹介と自己PR」,「学生個人資料」を発表することや、ジャーナルを閲覧し、文章の構成内容を考え、グループワークすることで、これからの学生生活に必要な「考え・書く・意見を述べる」ことについて学びます。								
到達目標	①社会人として求められる基本的な仕事への取組み姿勢やビジネスマナー、就業時のマナーを理解し、適切に行動できる。 ②自己紹介や自己PRを通じて、自身の強みや特性を整理し、他者にわかりやすく伝えることができる。 ③ジャーナルや資料の内容を読み取り、構成を意識した文章作成ができる。 ④グループワークを通じて、自分の意見を論理的に述べる力と、他者の意見を受け入れ協働する態度を身につける。								
成績評価	授業で出す課題の内容評価、定期試験（後半は除外）などによって総合的に評価する。								
その他	井浦ひとみ、畑田桜（病院理学療法科において理学療法士として勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	なし		
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	第1章 キャリアと豊かな仕事生活 1-1 働くということ（プリント1枚）
2	1-2 仕事への取り組み方 第2章 ビジネスマナーの基本2-1 ビジネスマナーは社会人としての基本（プリント1枚）
3	2-1 ビジネスマナーは社会人としての基本③より 2-2 職場でのコミュニケーション
4	第3章 就業のマナー 3-1 出社から退社まで 2-3 円滑なコミュニケーションのために2-4 社会人としての身だしなみ（プリント1枚）
5	第1章・第2章 模擬テスト 第3章 就業マナー 3-2 仕事での態度や行動（プリント1枚）
6	3-3 感じのよいあいさつ 3-4 おじぎの基本とお客様との接し方（プリント1枚）
7	第3章 模擬テスト 第9章 来客対応と面談の基本マナー 9-2 出迎えから見送りまで 9-4 名刺交換と紹介（プリント1枚）
8	9-4 名刺交換と紹介 第10章 訪問のマナー10-3 取引先とのつきあい 10-4 仕事関係とのつきあい（プリント1枚）
9	1. 臨床実習について（実習のイメージづくり）
10	2. 臨床実習においての患者さんとスタッフの方との関係構築について
11	3. 実習関係書類の説明および「学生個人資料」の作成
12	4. グループワーク「学生個人資料」の発表
13	5. ジャーナル（雑誌）の閲覧と発表準備（グループワーク）
14	6. ジャーナル（雑誌）閲覧後の全体グループ発表
15	7. ケースレポートについて まとめ 感想文を書きましょう

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
	○						令和 7年度		PT学科			
授業科目名	人文科学Ⅱ					担当者名		中林 紘二				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	Officeの主要3ソフト（Word・Excel・PowerPoint）を学習する。特に、理学療法業務で頻繁に使うことになるであろう基本的な機能・使い方を中心に解説する。また、練習問題などを用いて、学習内容を復習することで、操作方法を確実にマスターする。											
到達目標	①Word、Excel、PowerPointの基本操作を理解し、目的に応じて使い分けができる。 ②理学療法業務に関連する文書作成（例：報告書、記録）、表計算（例：データ整理、簡易集計）、プレゼン資料作成（例：症例発表）などに必要な機能を活用できる。 ③練習問題を通じて学習内容を定着させ、基本的な操作を自力で再現できる。 ④ITリテラシーの向上を図り、業務効率化やチーム内での情報共有に役立てることができる。											
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。											
その他	中林紘二（病院理学療法科において理学療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	特になし		
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション Wordの概要 文字の入力
2	Word 文章の作成
3	Word 表の作成
4	Word 表現力の向上
5	Excel データ入力
6	Excel 表の作成
7	Excel グラフの作成
8	Excel 複数シートの操作
9	Powerpoint 基本的なプレゼンテーションの作成
10	Powerpoint 表の作成
11	Powerpoint グラフの作成
12	Powerpoint 図形、SmartArt、画像、ワードアート
13	Powerpoint 特殊効果
14	発表資料作成
15	発表

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 7年度 PT学科					
	○								
授業科目名	自然科学 I					担当者名	早川 智之		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1	1			授業時間数	前期 30	後期	前期	後期
授業概要	理学療法の基礎となる物理学の基本概念について学習する。運動や力、エネルギー、熱、波、光、電気など自然現象の理解を通じて、身体の運動や医療機器の原理に関する科学的思考力を養う。								
到達目標	①物理量の表現、グラフや関数の利用、運動と力の法則、エネルギーの概念を理解し、自然現象を理論的に説明できる。 ②熱、波、光、電気・磁気などの知識を通じて、理学療法に必要な科学的視点と臨床応用力を理解できる。								
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。								
その他	早川智之（病院理学療法科において理学療法士として勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	特になし(教員が資料を作成し配布します)		
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	物理量とその表し方
2	物理学で使うグラフと関数①(三角関数)
3	物理学で使うグラフと関数②(ベクトル)
4	いろいろな運動(速度と加速度、等速直線運動と等加速度直線運動など)
5	さまざまな力(重力、張力、垂直抗力、摩擦力など)
6	力のつり合いと運動の法則
7	物体の重心と回転運動(力のモーメント、てこの原理など)
8	運動量、仕事とエネルギー(運動エネルギーと位置エネルギーなど)
9	温度と熱
10	波の運動
11	音と光
12	視覚器
13	電気と力
14	磁気と電流
15	自然科学の臨床応用

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 7年度 PT学科					
	○								
授業科目名	自然科学Ⅱ					担当者名	中林 紘二		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	理学療法士として必要な統計学の基礎を、さまざまなデータを用いて学ぶ。また、専門書や論文に示されたデータを用いて、そのデータが示す意味が読み取れるようになる。実際の研究論文から、その作成の手順や考え方を学ぶ。								
到達目標	①理学療法に関する論文に示されたデータの示す意味を説明できる。 ②研究論文をもとに、研究のデザインについて考え方を理解できる。								
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。								
その他	中林紘二（病院理学療法科において理学療法士として勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	特になし		
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	①オリエンテーション ②科学的な理学療法とは
2	エビデンスレベル（EBMの手順）・ガイドラインの活用について
3	研究の種類について（記述研究、横断研究）
4	研究の種類について（ケースコントロール研究、コホート研究）
5	研究の種類について（ランダム化比較対照試験、システマティックレビュー）
6	統計の基礎（母集団、信頼区間）
7	統計の基礎（平均、分散、標準偏差）
8	統計の基礎（相関関係、回帰分析）
9	研究の基礎（バイアス、ブラインド）
10	統計の基礎（平均の差の検定、t検定、分散分析）
11	統計の基礎（効果量）
12	感度、特異度、陽性尤度比について
13	研究の基礎（第1種の過誤、第2種の過誤、帰無仮説）
14	研究の基礎（尺度）
15	国家試験問題の解説・まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
	○						令和 7年度		PT学科			
授業科目名	保健体育理論Ⅰ					担当者名		得本 啓次				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。 適切な指導を行えることが、今後の健康の維持増進に必要な不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。											
到達目標	①健康増進におけるスポーツの意義について説明できる。 ②子供から高齢者まで健康増進を目的としたスポーツの効果を理解できる。 ③日本の生涯スポーツの現状を理解し説明できる。 ④児童期、高齢期の運動指導の重要性が理解でき指導できる。 ⑤生涯スポーツトレーナー（ベーシック）の資格取得する。											
成績評価	レポート30％，試験70％ 本講義は生涯スポーツトレーナー（ベーシック）の資格取得を目指す											
その他	得本啓次（県立高校において体育教諭として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	改訂版 生涯スポーツトレーナー教本	公益財団法人日本健康スポーツ連盟・編集	学校法人国際学園
参考図書	生涯スポーツトレーナーアドバンス実践編教本	公益財団法人日本健康スポーツ連盟・編集	学校法人国際学園

回数	授 業 計 画
1	生涯スポーツ ガイダンス、生涯スポーツ概論
2	トレーニング法 イメージトレーニングの基礎知識とマインドセット
3	トレーニング法 イメージ結合法の理解と実践
4	トレーニング法 未来創造、発表
5	スポーツ心理学 カウンセリング、人間の心身発達理論
6	スポーツ心理学 コミュニケーションスキル種類を理解し、方法論を学び指導に繋げる
7	スポーツマネジメント チームマネジメント、マーケティング戦略を理解し健康社会の貢献
8	解剖生理学 解剖学、生理学の概要、骨の組織構造
9	解剖生理学 筋肉の構造とはたらき、筋収縮のメカニズム
10	解剖生理学/運動指導 子どもの身体の特徴と子どもの運動指導
11	解剖生理学/運動指導 高齢者の身体の特徴と高齢者の運動指導
12	健康科学 日常生活での運動の重要性や姿勢の大切さ
13	生涯スポーツ 日常生活で取り組める運動を学び実践
14	関連法規 生涯スポーツトレーナーに関わる法律や関連する法律
15	総括 まとめの授業 試験対策

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 7年度 PT学科					
	○								
授業科目名	保健体育理論Ⅱ					担当者名	得本 啓次		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
						30			
授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。適切な指導を行えることが、これからの健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。本授業は主に実技指導を中心に行う。								
到達目標	①障がい者スポーツの歴史的背景およびスポーツの実践を通して、指導方法を理解できる。 ②日本の生涯スポーツの現状を把握し、様々な生涯スポーツ、生涯運動を理解し実施できる。 ④健康寿命の延伸のための知識を理解する。 ⑤生涯スポーツトレーナー（アドバンス）の資格取得する。								
成績評価	レポート30%、試験70% 生涯スポーツトレーナー（アドバンス）の資格取得を目指す								
その他	得本啓次（県立高校において体育教諭として勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	改訂版 生涯スポーツトレーナー教本	公益財団法人日本健康スポーツ連盟・編集	学校法人 国際学園
参考図書	生涯スポーツトレーナーアドバンス実践編教本/車いす フィットネストレーナー教本/ティーボール	公益財団法人日本健康スポーツ連盟・編集他	学校法人 国際学園 他

回数	授 業 計 画
1	スポーツ心理学 ガイダンス、より良い人間関係を築くための心理学
2	栄養学 スポーツ栄養学三大栄養素と五大栄養素
3	コンディショニング 基礎理論,アライメントチェック
4	コンディショニング コンディショニング体操
5	運動指導 ティーボール スポーツ・コンプライアンス
6	運動指導 ティーボール ルール, 審判方法, 運営方法, 指導法
7	運動指導 ティーボール 捕る投げる打つの基礎動作
8	運動指導 ティーボール 試合形式練習と試合運営
9	運動指導 子どもと高齢者の運動指導方法の特性と留意点
10	スポーツ医学 筋膜リリースと疲労回復
11	スポーツ医学 筋膜リリースのセルフマッサージ
12	指導法 トレーニング指導法理論、トレーニング方法の理解
13	指導法 トレーニング実施と指導法、補助の実施
14	障がいスポーツ 障がいスポーツの歴史、車いすの種類と仕組み
15	障がいスポーツ 障がい者のトレーニング適応と実技指導

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
	○						令和 7年度		PT学科			
授業科目名	外国語					担当者名		内丸 誌帆、中山 大貴				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	リハビリテーション領域で主に用いられる英単語を理解と生活活動での英文（one point）に関心を持ちながら、英語力を身につける。											
到達目標	リハビリテーション領域で用いられる英単語を利用した英文の意味を理解できる。											
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。											
その他	中山大貴（病院理学療法科において理学療法士として勤務）、内丸詩帆（実務経験有）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	PT・OTが書いた リハビリテーション英会話	三木 貴弘著	MEDICAL VIEW
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	身体部位、骨格の名称
2	関節の名称
3	主な骨格筋（前面）の名称
4	主な骨格筋（後面）の名称
5	関節可動域運動の専門的な表現と一般的な表現
6	歩行動作の表現、リハビリテーション機器の表現
7	挨拶について（自己紹介の表現）
8	基本的なコミュニケーション（指示、受け答えの表現）
9	応用的なコミュニケーション（問診、質問の表現）
10	痛みの部位、種類（痛みの場所、種類を聞く表現）
11	痛みの程度、経過（痛みの程度、経過を聞く表現）
12	基本的な肢位の指示（各肢位の表現、患者の位置を微調整する表現）
13	応用的な肢位の指示（各肢位の表現、真似してもらうときの表現）
14	ケーススタディー（症例に対する外国語を用いた表現）
15	まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 7年度		PT学科			
授業科目名	解剖学 I					担当者名		畑田 桜、清水 圭悟				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						60						
授業概要	ヒトの働きと構造を総合的・体系的に理解させるため、人間も含めた生物体の構造を細胞レベル、組織、器官さらには系統レベルで進める。また生命現象を理解するための考え方、基本的学術用語とヒトについて理解を深める。ヒトの身体の仕組みと、これがどのようにして働いているかを論述する。											
到達目標	①ヒトの働きと構造を総合的・体系的に理解できる。 ②ヒトの身体の仕組み（骨関節、筋）及び機能（感覚器）について説明できる。											
成績評価	出席状況、授業態度、小テスト、課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。											
その他	清水圭悟、畑田桜（病院理学療法科において理学療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版/標準理学療法学・作業療法学 解剖学 専門基礎分野 第5版	坂井 建雄監訳/奈良 勲 鎌倉 矩子	医学書院
参考図書	解剖学トレーニングノート 第5版	竹内 修二 著	医学教育主出版社

回数	授 業 計 画
1	【総論】解剖学とは、人体の外形と部位、体の方向用語と関節運動の方向づけ
2	総論 4. 男女の差 5. 体腔 6. 体部の形態に関する名称
3	【総論】骨の形状や名称 【骨格系(下肢)】寛骨、大腿骨（近位部）
4	総論 7. 細胞と組織
5	【骨格系(下肢)】大腿骨（遠位部）、寛骨各部位の連結、股関節について
6	総論 7. 細胞と組織
7	【骨格系(下肢)】膝蓋骨、脛骨、膝関節について
8	総論 8. 器官と器官系 9. 発生とは 10. 胚葉の分化
9	【骨格系(下肢)】腓骨、足根骨、足弓、足関節について、足部の変形
10	筋系（総論）1. 骨格筋の構造 2. 腱
11	【骨格系(上肢)】鎖骨、肩甲骨、肩鎖関節について
12	筋系（各論）1. 背部筋 2. 頭部の筋
13	【骨格系(上肢)】上腕骨(近位部)、肩関節について
14	筋系（総論）3. 頸部の筋 4. 胸部の筋
15	【骨格系(上肢)】上腕骨（遠位部）橈骨、尺骨
16	【中間試験】筋系（総論）5. 横隔膜 6. 腹部の筋

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○			令和 7年度		PT学科			
授業科目名	解剖学Ⅰ					担当者名		畑田 桜、清水 圭悟			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						60					

[illegible]

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 7年度		PT学科			
授業科目名	解剖学Ⅱ					担当者名		柿原 聡隆 早川 智之				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							60					
授業概要	人体標本と触診やデッサンによって内臓器系他の構造や位置関係を確認し、理学療法の学問構想に関連づけて学習する。											
到達目標	ヒトの内臓器系他の構造や位置関係を説明できる。											
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。											
その他	柿原聡隆 早川智之（病院理学療法科において理学療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版	坂井 建雄監訳	医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	循環系（総論）1. 循環（大循環／小循環）2. 血管の構造3. 動脈 4. 静脈 5. 毛細血管 6. 特殊な血管 7. 毛細血管のはたらき
2	循環系（心臓）1. 外観・位置 2. 心臓の内腔 3. 心臓の弁装置 4. 心臓壁の構成
3	循環系（心臓）5. 刺激伝導系 6. 心臓の神経支配 7. 心臓周期・心音） 8. 胎児循環の特徴 9. 先天性心疾患
4	循環系（体循環・肺循環） 1. 循環器系 2. 小循環（肺循環） 3. 大循環（体循環）
5	循環系（リンパ）1. 毛細リンパ管 2. リンパ管 3. リンパ組織とリンパ器官
6	消化器系（総論）1. 消化器の一般構造 2. 消化管に分布する神経
7	消化器系（各論1）1. 口腔 2. 咽頭 3. 扁桃輪 4. 食道 5. 胃 6. 小腸
8	消化器系（各論1）7. 大腸 8. 直腸 9. 排便メカニズム
9	消化器系（各論2）1. 膵臓 2. 胆嚢 3. 胆道 4. 肝臓
10	消化器系（各論2）5. 腹膜 6. 腹膜後器官 7. 栄養素とその働き
11	呼吸器系 1. 鼻 2. 咽頭 3. 喉頭 4. 気管と気管支 5. 肺
12	呼吸器系 6. 胸膜 7. 縦隔
13	泌尿器系 1. 腎臓の位置と形状 2. 腎臓の実質 3. 腎臓の構造
14	泌尿器系 4. 尿生成のしくみ 5. 尿管 6. 膀胱 7. 尿道
15	泌尿器系 8. 排泄について【中間試験】
16	内分泌器系 1. 内分泌とは 2. ホルモンと標的器官 3. 内分泌腺の種類1) 視床下部2) 下垂体

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○			令和 7年度		PT学科			
授業科目名	解剖学Ⅱ					担当者名		早川 智之 柿原 聡隆			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							60				

[illegible]

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○			令和 7年度 PT学科					
授業科目名	生理学 I					担当者名		峰 剛樹			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期 60	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	ヒトが生活する中で植物性機能（生体の機能）が発揮される仕組みを理解する。 人体を構成する臓器がどのようにつながり、どのような機能をになっているのかについて学ぶ。主に「循環器」「呼吸器」「泌尿器」「消化器」について理解する。										
到達目標	①人体の主要な臓器（循環器・呼吸器・泌尿器・消化器）の構造と機能を説明できる。 ②臓器間の連携によって生命維持がどのように行われているかを理解し、図や言葉で説明できる。 ③日常生活において、臓器の機能がどのように発揮されているかを具体的な場面（食事・運動・排泄など）に即して説明できる。										
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。										
その他	峰剛樹（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版	奈良 勲 / 鎌倉 矩子□	医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション 生理学の概要 本能的欲求に基づく動機づけ行動
2	脳波と睡眠
3	学習と記憶
4	循環器総論① （ 循環の構成要素 血液の組成と性状 赤血球、鉄の代謝 ）
5	循環器総論② （ 血管機能 体循環と肺循環 ）
6	循環器総論③ （ 心臓の役割 心電図 ）
7	循環器総論④ （ 心臓の役割 刺激伝導系 心電図 ）
8	循環器各論① （ 循環調節機構 血圧調整 ）
9	循環器各論② （ 循環調節機構 血圧調整 ）
10	循環器各論③ （ 循環器の運動生理 ）
11	呼吸器総論① （ 呼吸器の構造 呼吸運動 換気 胸腔内圧と気道内圧 ）
12	呼吸器各論① （ 肺循環とガス交換 呼吸器の用語の整理）
13	呼吸器各論② （ 肺気量分画 酸素解離曲線 ）
14	呼吸器各論③ （ 呼吸器調節機構 ）
15	呼吸器各論④ （ 呼吸器の運動生理 換気応答 ）
16	酸塩基平衡の基本概念

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 7年度		PT学科			
授業科目名	生理学 I						担当者名		峰 剛樹			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等		1年次		2年次		3年次	
単位数	2					授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							60					

[illegible]

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 7年度		PT学科			
授業科目名	生理学Ⅱ					担当者名		峰 剛樹				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							60					
授業概要	ヒトが生活する中で動物機能（生体の機能）が発揮される仕組みを理解する。主に神経機構、運動、感覚など身体を動かし、外からの変化や刺激を感覚として認知する機能といった活動を学ぶ。これらは動物だけに備わる大脳を中心とする活動で、「中枢神経」「末梢神経」「骨格筋」「感覚」について理解する。また体内を一定に維持するための機構である「自律神経」「内分泌」の役割について理解する。											
到達目標	①中枢神経・末梢神経・自律神経の基本的な構造と働きを説明できる。 ②骨格筋の構造と、神経との関係によって身体がどのように動くかを説明できる。 ③感覚器と内分泌の働きを理解し、ヒトがどのように環境の変化に反応し、体内の状態を一定に保っているかを説明できる。											
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。											
その他	峰剛樹（病院理学療法科において理学療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 生理学 第5版	奈良 勲 / 鎌倉 矩子口	医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	細胞の微細構造と機能 （ 血液細胞の産生 白血球 血小板 ）
2	細胞・生体とその環境 （ 細胞機能 DNA エネルギー合成 ）
3	神経総論① （ 神経細胞学 活動電位 興奮の伝達 ）
4	神経総論② （ 大脳機能 大脳機能局在 ）
5	神経総論③ （ 大脳基底核 脳幹 小脳 脊髄 ）
6	運動機能総論 （ 骨格筋機能 筋肉とその収縮 興奮収縮連関 ）
7	運動機能各論① （ 収縮の種類 筋と運動ニューロン 運動単位 ）
8	運動機能各論② （ 筋紡錘と伸張反射 ）
9	運動機能各論③ （ ゴルジ腱器官と自原抑制反射 ）
10	運動機能各論④ （ 下行性伝導路 錐体路機能 ）
11	運動機能各論⑤ （ 大脳基底核と錐体外路 小脳機能 ）
12	運動機能各論⑥ （ 脳幹機能 ）
13	感覚機能総論 （ 体性感覚と特殊感覚 ）
14	感覚機能総論② （ 感覚受容器 ）
15	感覚機能各論① （ 上行性伝導路 ）
16	感覚機能各論② （ 特殊感覚 聴覚 ）

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○			令和 7年度		PT学科			
授業科目名	生理学Ⅱ					担当者名		峰 剛樹			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							60				

[illegible]

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 7年度		PT学科			
授業科目名	運動学 I					担当者名		清水 圭悟				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						60						
授業概要	骨や筋・神経の名称及び骨・筋・関節の構造と機能について学び、生体力学からみた関節運動を理解する。また、歩行ならびに姿勢制御の概要を理解する。											
到達目標	①骨や筋・神経の名称及び骨・筋・関節の構造と機能について説明できる。 ②生体力学からみた関節運動を理解できる。 ③歩行ならびに姿勢制御の概要を理解できる。											
成績評価	出席状況、授業態度、小テスト、課題提出、中間試験および期末試験の結果をもとに総合的に評価する											
その他	清水圭悟（病院理学療法科において理学療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	プロメテウス解剖学コアアトラス 第4版	坂井健雄 監訳	医学書院
参考図書	（教科書として使用する）PT・OTのための運動学ノート/基礎運動学 第6版補訂	中島喜代彦、中島雅美/中村隆一	医歯薬出版

回数	授 業 計 画
1	総論：(1)運動学とは (2)身体に働く種々の力 (3)人体の区分 (4)身体の面と軸
2	(5)骨および関節の名称：骨標本使用 (6)関節の運動方向
3	骨学総論：(1)骨の形態 (2)骨の基本構造
4	関節総論：(1)関節の分類とその特徴 (2)滑膜性関節の構造と構成体
5	骨学各論：(1)脊柱
6	骨学各論：(1)胸郭 (2)頭蓋
7	骨学各論：(1)肩甲帯 (2)上肢骨
8	骨学各論：(1)骨盤帯 (2)下肢骨
9	骨の指標に関する触察実習：Tシャツおよび短パンの服装
10	筋学総論：(1)筋の形状 (2)骨格筋の構造 (3)骨格筋の収縮機序
11	筋学総論：(1)筋と支配神経 (2)筋の起始と停止 (3)筋収縮様態
12	筋学各論：肩甲帯から肩関節
13	筋学各論：肘関節から手指
14	筋学各論：骨盤帯から股関節及び膝関節
15	筋学各論：足関節から足趾
16	筋学各論：体幹筋

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○			令和 7年度		PT学科			
授業科目名	運動学Ⅰ					担当者名		清水 圭悟			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						60					

[illegible]

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○			令和 7年度		PT学科			
授業科目名	運動学Ⅱ					担当者名		清水 圭悟			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							60				
授業概要	ヒトの運動において、各関節の構造と機能には特徴があります。前期の内容の復習となる各関節の構造に対しての特徴やその機能について理解をしてきます。また、各関節の運動における関節の動きや筋の作用についてその特徴を説明ができることが目標となっています。										
到達目標	①各関節の構造に対しての特徴やその機能について理解できる。 ②各関節の運動における関節の動きや筋の作用についてその特徴を説明ができる。										
成績評価	出席状況、授業態度、小テスト、課題提出、中間試験および期末試験の結果をもとに総合的に評価する										
その他	清水圭悟（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	運動器の機能解剖 上肢・脊柱編/下肢編	J. Gastaing, J. J. Santini 共著	協同医書
参考図書	（教科書として使用する）基礎運動学 第6版補訂/PT・OTのための運動学ノート	中村隆一/中島喜代彦、中島雅美	医歯薬出版

回数	授 業 計 画
1	肩関節複合体：(1)基本概念 (2)機能的肢位 (3)肩の運動の定義と運動域
2	肩甲上腕機構：(1)肩甲上腕関節の構造 (2)腱板の安定化作用 (3)三角筋と棘上筋の共同作用
3	肩甲上腕機構：(4)肩の第2関節 (5)運動筋 (6)可動域
4	肩甲胸郭機構：(1)胸郭上を動く肩甲骨 (2)胸鎖関節 (3)肩鎖関節 (4)肩の2大機構による自動運動
5	肘関節：(1)基本概念 (2)腕尺関節 (3)腕橈関節 (4)関節包と靱帯 (5)関節の運動と可動域 (6)運動筋
6	前腕：(1)基本概念 (2)回内・回外機構の分析 (3)回内・回外機構の他動的要素 (4)回内・回外運動軸と運動筋
7	前腕：(1)日常生活活動における回内・回外 手関節：(1)基本概念 (2)関節形態と靱帯 (3)動きと筋
8	手指：(1)基本概念 (2)解剖学的名称 (3)関節形態と靱帯
9	手指：(4)運動の定義と可動域 (5)外来筋と内在筋の関係 (6)腱鞘 (7)屈筋機構と伸展機構の概略
10	手指：(8)伸展機構による指の伸展 (9)支靱帯による連動作用 (10)解放された指 (11)虫様筋 (12)爪の役割
11	脊柱：(1)基本概念 (2)椎骨の基本形態 (3)椎骨の部位別形態
12	脊柱：(4)脊椎の機能的単位 (5)椎間板－椎体複合体 (6)椎骨の誘導要素
13	脊柱：(7)椎骨の制動要素 (8)脊柱の運動筋と安定筋
14	脊柱：(9)脊柱の彎曲の成り立ち (10)脊柱の可動性
15	脊柱：(11)脊柱に加わる力 (12)脊柱管と椎間孔 (14)椎体の血管分布 (15)脊柱の退化
16	まとめと中間試験

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○			令和 7年度		PT学科			
授業科目名	運動学Ⅱ					担当者名		清水 圭悟			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							60				

[illegible]

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 7年度 PT学科					
		○							
授業科目名	人間発達学					担当者名	畑田 桜		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	胎児期から新生児期、乳児期、学童期から、青年期、老年期に至るまでの、身体的な発育・発達及び精神的な発達を学び、それぞれの時期の発達の特徴を体系的に理解する。また、発育・発達に関係する因子と発達理論及び発達評価法の概略を学ぶ。								
到達目標	①胎児期から乳児期に至るまでの、身体的な発育・発達及び精神的な発達、原始反射・反応を理解し説明できる。 ②学童期から老年期に至るまでの、身体面、精神面の発達とその特徴を理解し説明できる。 ③発育・発達に関係する因子と発達理論及び発達評価法の概略を理解し説明できる。								
成績評価	普段の授業で出す課題の内容評価、学習意欲、学習態度、出席率などによって総合的に評価する。								
その他	畑田桜（病院理学療法科において理学療法士として勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	イラストでわかる人間発達学		医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	胎児期からの循環系の発達と出生後の呼吸循環機能の加齢による推移を学ぶ。1
2	胎児期からの循環系の発達と出生後の呼吸循環機能の加齢による推移を学ぶ。2
3	運動機能（粗大運動、微細運動）の発達と評価と成長、認知、社会性、情緒の発達と評価を理解する。1
4	運動機能（粗大運動、微細運動）の発達と評価と成長、認知、社会性、情緒の発達と評価を理解する。2
5	運動機能（粗大運動、微細運動）の発達と評価と成長、認知、社会性、情緒の発達と評価を理解する。3
6	血液像、栄養所要量、消化機能及び腎臓機能の変化について新生児期から青年期までの推移を理解する。思春期から青年期における精神面の発達とその特徴を学ぶ。1
7	血液像、栄養所要量、消化機能及び腎臓機能の変化について新生児期から青年期までの推移を理解する。思春期から青年期における精神面の発達とその特徴を学ぶ。2 【中間試験】
8	胎児期から新生児期、乳児期の発育・発達の正常運動発達を学ぶ。1
9	胎児期から新生児期、乳児期の発育・発達の正常運動発達を学ぶ。2
10	胎児期から新生児期、乳児期の発育・発達の正常運動発達を学ぶ。3
11	胎児期から新生児期、乳児期の発育・発達の正常運動発達を学ぶ。4
12	胎児期から新生児期、乳児期の発育・発達で脳神経の発達と反射の発達を学ぶ。1
13	胎児期から新生児期、乳児期の発育・発達で脳神経の発達と反射の発達を学ぶ。2
14	胎児期から新生児期、乳児期の発育・発達で脳神経の発達と反射の発達を学ぶ。3
15	胎児期から新生児期、乳児期の発育・発達で脳神経の発達と反射の発達を学ぶ。4

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 7年度		PT学科			
授業科目名	臨床心理学					担当者名		手嶋 雄太				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	心理学とは何か考えるところから始め、近年では、心の問題のみならず、身体疾患に関連する問題の解決のためにも心理学的知識が重要であるため、発達段階での問題から臨床で起こりうる問題を例示しながら、リハビリテーション心理学に関する理論と共に、その理論に基づくアセスメント方法や介入法について学ぶことを目的とする。											
到達目標	①リハビリテーション心理学に関する理論と共に、その理論に基づくアセスメント方法や介入法について理解できる。											
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。											
その他	手嶋雄太（病院作業療法科において作業療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	よくわかる臨床心理学 改訂新版	下山晴彦 編	ミネルバ書房
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	臨床心理学とは 1) 正常と異常
2	臨床心理学とは 2) 適応と不適応
3	臨床心理学の周辺の理論 1) 性格の構造及び類型論、特性論
4	臨床心理学の周辺の理論 2) 心の発達
5	心の問題 1) 乳幼児期、児童期、思春期、成人期
6	心の問題 2) 成人期以降
7	心理アセスメント 1) 心理検査法 「質問紙法」
8	心理アセスメント 2) 心理検査法 「投影法」
9	心理アセスメント 3) 心理検査法 「作業検査法、知能検査」
10	心理アセスメント 4) 観察法、面接法、他児童心理アセスメント
11	心理的問題に対するアプローチ 1) 様々な心理療法：精神分析療法、来談者中心療法、行動療法、交流分析、他
12	心理的問題に対するアプローチ 2) 家族療法、認知療法 他
13	心理療法におけるカウンセラーとクライアント 1) 心理療法の効果
14	心理療法におけるカウンセラーとクライアント 2) 良好な関係作り
15	まとめ 心理学 国家試験過去問題の傾向と対策

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 PT学科					
		○		令和 7年度					
授業科目名	病理学					担当者名	峰 剛樹		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
						30			
授業概要	病気の原因を理解するために、病理学を学ぶ。特に総論をしっかりと学習することで、各疾患についての概要を捉えることに役立てていく。								
到達目標	各疾患に対する病理学的変化を説明できる。								
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。								
その他	峰剛樹（病院理学療法科において理学療法士として勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	わかりやすい病理学 改訂第7版	恒吉正澄	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション 病理学の概要
2	病因論 退行性病変（変性、萎縮、細胞死）
3	進行性病変（肥大、過形成、化生、再生と創傷治癒）
4	代謝障害（タンパク質代謝異常、核酸代謝異常、脂質代謝異常）
5	代謝障害（糖質代謝異常） 循環障害（充血、うっ血、出血）
6	循環障害（血栓、塞栓、梗塞、高血圧症、門脈圧亢進症）
7	免疫（因子と細胞、免疫の成立）
8	免疫反応がもたらす傷害・疾患
9	炎症
10	感染症
11	腫瘍（生物学的特徴、組織形態）
12	腫瘍（進展形式） 老化
13	先天異常
14	各論 循環器疾患、神経系疾患など
15	各論 呼吸器疾患、消化器疾患など

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 7年度		PT学科			
授業科目名	基礎栄養学					担当者名		長江 紀子、中山 大貴				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									15			
授業概要	人間が生まれてから死ぬまでを、栄養学の観点から理解することを目的とする。そのために、五大栄養素の働き、栄養素と食品との関係、日本人の食事摂取基準と食生活、治療食の種類と分類、食生活と生活習慣病の関係について、また、ライフサイクルと栄養について学習する。また理学療法士に必要な栄養に関する基礎知識を学ぶ。											
到達目標	①五大栄養素の役割と食品との関係を理解し、適切な栄養管理について説明できる。 ②ライフサイクルに応じた栄養の必要性を理解し、食生活と生活習慣病の関係について説明できる。 ③栄養学の基礎知識を活用し、リハビリテーションにおける栄養管理の重要性を説明できる。											
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。											
その他	中山大貴（病院理学療法科において理学療法士として勤務）、長江紀子（病院にて管理栄養士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	好きになるシリーズ、好きになる栄養学 第3版	麻見直美、塚原典子著	株式会社講談社
参考図書	授業内容に応じて資料を配布する		

[illegible]

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 7年度		PT学科			
授業科目名	基礎薬理学					担当者名		柿原 隆聡				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									15			
授業概要	薬剤の使用目的、効能、使用方法、禁忌事項などについて理解することを目的とする。また、高血圧、糖尿病、精神病など、リハビリテーションの対象となる疾患のための薬物については、訓練との関係から禁忌事項などについても学習する。											
到達目標	①薬剤の使用目的、効能、使用方法、禁忌事項などについて理解できる。 ②高血圧、糖尿病、精神病など、リハビリテーションの対象となる疾患のための薬物については、治療との関係から禁忌事項を説明できる。											
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。											
その他	柿原隆聡（病院理学療法科において理学療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	リハベーシック 薬理学・臨床薬理学	内山 靖・藤井浩美 他	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	薬理学総論①アゴニスト・アンタゴニスト
2	薬理学各論：運動器系疾患治療に使用する薬物及び薬物療法
3	薬理学各論：呼吸・循環器系疾患治療に使用する薬物及び薬物療法
4	薬理学各論：神経系疾患治療に使用する薬物及び薬物療法
5	薬理学各論：代謝疾患治療に使用する薬物及び薬物療法
6	薬理学各論：アレルギー・炎症、呼吸器系疾患治療に使用する薬物及び薬物療法
7	薬理学各論：感染症・がん治療に使用する薬物及び薬物療法
8	臨床薬理学：薬害、薬物依存

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校						
			○				令和 7年度		PT学科				
授業科目名	整形外科科学Ⅰ					担当者名		岩田 芳典、清水 圭悟					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次			
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
							30						
授業概要	整形外科の科学基礎から骨・軟骨・靱帯・腱の損傷修復と再生、診断総論としての検査（徒手検査法、レントゲン、MRI、骨シンチなど）、治療総論としての保存療法と手術療法、疾患総論としての軟部組織・骨・関節の感染症、関節リウマチとその類縁疾患、慢性関節疾患（退行性、代謝性）、四肢循環障害と阻血壊死性疾患、先天性骨系統・代謝性骨疾患、先天異常症候群、骨・軟部腫瘍、神経・筋疾患について学習する。												
到達目標	①骨・軟骨・靱帯・腱の損傷修復と再生、診断総論としての検査について理解できる。 ②各疾患に対する保存療法と手術療法の総論を説明できる。												
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。												
その他	岩田芳典 清水圭悟（病院理学療法科において理学療法士として勤務）												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準整形外科科学 第15版	中村利孝・松野丈夫	医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	整形外科の基礎科学：骨・軟骨・靱帯・腱の損傷修復と再生1
2	整形外科の基礎科学：骨・軟骨・靱帯・腱の損傷修復と再生2
3	整形外科診断総論：主訴・主症状からの想定すべき疾患、整形外科的現症の取り方
4	整形外科診断総論：検査（画像検査・検体検査・生体検査）
5	整形外科治療総論：保存療法と手術療法1
6	整形外科治療総論：保存療法と手術療法2
7	整形外科疾患総論1：軟部組織・骨・関節の感染症
8	整形外科疾患総論2：関節リウマチとその類縁疾患
9	整形外科疾患総論3：慢性関節疾患（退行性、代謝性）
10	整形外科疾患総論4：四肢循環障害と阻血壊死性疾患
11	整形外科疾患総論5：先天性骨系統疾患、先天異常症候群
12	整形外科疾患総論6：代謝性骨疾患
13	整形外科疾患総論7：骨腫瘍
14	整形外科疾患総論8：軟部腫瘍
15	整形外科疾患総論9：神経疾患、筋疾患

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 7年度 PT学科					
		○							
授業科目名	整形外科科学Ⅱ					担当者名	岩田 芳典、清水 圭悟		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
								30	
授業概要	整形外科1の基礎から、外傷学として外傷総論、軟部組織損傷、骨折・脱臼、脊椎損傷、末梢神経損傷について学習する。								
到達目標	外傷学として外傷総論、軟部組織損傷、骨折・脱臼、脊椎損傷、末梢神経損傷の症状に対する治療について説明できる。								
成績評価	ふだんの授業で出す課題の内容評価，学習意欲，学習態度，出席率などによって総合的に評価する。								
その他	岩田芳典 清水圭悟（病院理学療法科において理学療法士として勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準整形外科科学 第15版	中村利孝・松野丈夫・井樋栄二他	医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	整形外科疾患各論1（肩関節）機能解剖、診察・検査、疾患
2	整形外科疾患各論2（肘関節）機能解剖、診察・検査、疾患
3	整形外科疾患各論3（手関節と手）機能解剖、診察・検査、疾患
4	整形外科疾患各論4（頸椎）機能解剖、診察・検査、疾患
5	整形外科疾患各論5（胸郭）機能解剖、診察・検査、疾患
6	整形外科疾患各論6（胸腰椎）機能解剖、診察・検査、疾患
7	整形外科疾患各論7（股関節）機能解剖、診察・検査、疾患
8	整形外科疾患各論8（膝関節）機能解剖、診察・検査、疾患
9	整形外科疾患各論9（足関節と足）機能解剖、診察・検査、疾患
10	整形外科外傷1 総論、軟部組織損傷
11	整形外科外傷2 骨折・脱臼
12	整形外科外傷3 骨折・脱臼
13	整形外科外傷4 骨折・脱臼
14	整形外科外傷6 脊椎損傷
15	整形外科外傷7 末梢神経損傷

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 7年度 PT学科					
		○							
授業科目名	神経内科学 I					担当者名	早川 智之		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
								30	
授業概要	神経疾患がリハビリテーションの中で占める割合は大きく、解剖と機能の面から神経症候学の特徴を整理し、神経疾患に対して興味を持って臨床の場に向かわせたい。								
到達目標	脳血管神経疾患について解剖と機能の面から神経症候学の特徴を説明できる。								
成績評価	出席状況・授業への参加意欲や態度、提出物、中間・定期試験を総合的に評価する。								
その他	早川 智之（病院理学療法科において理学療法士として勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	病気がみえる 7 脳・神経	医療情報科学研究所	メディックメディア
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	総論（解剖・生理の基礎）
2	脳血管疾患の概要 1）脳神経の障害特性
3	脳血管疾患の概要 2）脳梗塞の障害特性
4	脳血管疾患の概要 3）脳出血の障害特性
5	脳血管疾患の概要 4）小脳・脳幹の障害特性
6	脳脊髄液とその障害
7	中間テストとその振り返り
8	急性期における脳血管疾患
9	回復期における脳血管疾患 1）病態と症状
10	回復期における脳血管疾患 2）失語
11	回復期における脳血管疾患 3）失行・失認
12	回復期における脳血管疾患 4）評価演習
13	回復期における脳血管疾患 5）リハビリテーション
14	生活期における脳血管疾患
15	まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 7年度		PT学科			
授業科目名	神経内科学Ⅱ					担当者名		早川 智之				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									30			
授業概要	神経疾患がリハビリテーションの中で占める割合は大きく、解剖と機能の面から神経症候学の特徴を整理し、神経疾患に対して興味を持って臨床の場に向かわせたい。											
到達目標	脊髄神経疾患、末梢神経疾患、代謝系疾患などについて解剖と機能の面から神経症候学の特徴を説明できる。											
成績評価	小テストや課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。											
その他	早川 智之（病院理学療法科において理学療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	病気がみえる 7 脳・神経	医療情報科学研究所	メディックメディア
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	脊髄神経の解剖（感覚神経）
2	脊髄神経の解剖（運動神経）
3	脊髄神経疾患
4	末梢神経の解剖
5	末梢神経障害（ニューロパチー、CMT、絞扼性・圧迫性神経障害など）
6	代謝性神経障害（解剖と生理の基礎、疾患と検査法の理解など）
7	感染性疾患（解剖と生理の基礎、疾患と検査法の理解など）
8	先天奇形（解剖と生理の基礎、疾患と検査法の理解など）
9	てんかん（総論、てんかんの分類など）
10	てんかん（てんかんの病態の理解など）
11	腫瘍（総論、腫瘍の病態と治療法など）
12	腫瘍（腫瘍の疾患別の特徴など）
13	外傷（総論、高次脳機能障害など）
14	外傷（疾患別の特徴など）
15	総括

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 7年度		PT学科			
授業科目名	内科学					担当者名		佐藤 史弥				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30				
授業概要	全身的な内科疾患を伴った患者（理学療法対象者）のニーズに対応できる能力を養う。国家試験に出題頻度の高い主な内科疾患では、病態生理，症状，症候，診断等について幅広く学ぶ。											
到達目標	内科疾患の病態生理、症状、症候、診断等について理解できる。											
成績評価	ふだんの授業で出す課題の内容評価，学習意欲，学習態度，出席率，定期試験などによって総合的に評価する。											
その他	佐藤史弥（病院理学療法科において理学療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第5版	監修：奈良 勲／鎌倉 矩子他	医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	1. 全身状態 1) バイタルサイン
2	1. 全身状態 2) 栄養状態 3) 皮膚（褥瘡及び熱傷）
3	2. 症候 1) 胸痛（腹部痛）2) 呼吸困難・呼吸異常
4	2. 症候 3) 咯血・吐血 4) 動悸・心悸亢進
5	2. 症候 5) チアノーゼ 6) ショック 7) 浮腫
6	2. 症候 8) 発熱 9) 全身倦怠感 10) 食欲不振・食思不振 11) 悪心・嘔吐 12) 腹痛
7	2. 症候 13) 易感染性 14) 意識障害 15) めまい 16) 頭痛 17) けいれん
8	3. 各論 1) 腎・泌尿器疾患
9	3. 各論 2) 糖尿病 3) 血液・造血器疾患
10	3. 各論 4) 内分泌疾患-----（生理学の基礎が重要）
11	3. 各論 5) 感染症
12	3. 各論 6) 消化器疾患
13	3. 各論 7) アレルギー疾患・膠原病
14	3. 各論 8) 腫瘍（癌）-----（病理学の基礎が重要）
15	まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 7年度		PT学科			
授業科目名	老年医学					担当者名		畑田 桜				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									30			
授業概要	高齢者に特有の疾患や身体的・心理的・社会的変化を理解し、高齢者の健康維持・回復・QOL向上に貢献できる理学療法士を養成することを目的とする。											
到達目標	①老化のメカニズムや生理学的特性、老年期の心理、老化に伴う生活機能の変化、高齢者を取りまく地域の問題について説明できる。 ②老化に伴い特徴的に現れる疾患・障害とその病態について理解でき、治療手技を説明できる。 ③グループワークを行い老年期に特徴的な疾患や障害について発表が行える。											
成績評価	課題の提出状況の成績にて評価を行う。											
その他	畑田桜（病院理学療法科において理学療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野老年学	奈良 勲	医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	総論 骨運動器疾患①（骨粗鬆症・骨折・変形性関節症・関節リウマチ・後縦靱帯骨化症）
2	骨運動器疾患② 発表
3	骨運動器疾患③ 発表
4	神経疾患①（慢性硬膜下血腫・心原性脳梗塞・多発性ラクナ梗塞・パーキンソン病・血管障害性パーキンソンニズム・末梢神経障害）
5	神経疾患② 発表
6	神経疾患③ 発表
7	呼吸器疾患①（誤嚥性肺炎・COPD・間質性肺炎・呼吸器感染症）
8	呼吸器疾患② 発表
9	呼吸器疾患③ 発表
10	循環器疾患①（血圧異常・不整脈・虚血性心疾患・心不全）
11	循環器疾患② 発表
12	循環器疾患③ 発表
13	老年症候群①（認知症・フレイル・尿失禁・サルコペニア・低栄養・廃用症候群）
14	老年症候群② 発表
15	老年症候群③ 発表

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 7年度		PT学科			
授業科目名	小児科学					担当者名		畑田 桜				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									15			
授業概要	子どもの成長・発達、先天性疾患や小児特有の疾患について理解を深め、理学療法士として小児に適した支援・介入ができる基礎知識を身につけることを目的とする。											
到達目標	①小児の特徴、発達および小児特有の病気を理解できる。 ②小児特有の疾患に関する国家試験過去問題の解答・解説が行える。											
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。											
その他	畑田桜（病院理学療法科において理学療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 小児科学（第5版）	編集 富田 豊	医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	1. 新生児疾患 1) 新生児呼吸窮迫症候群 2) マスクリーニング 3) 新生児感染 4) 新生児痙攣の原因 5) 血液脳関門
2	2. 遺伝性疾患・染色体・奇形 1) 先天異常 2) 染色体①常染色体異常②性染色体異常
3	3) 環境因子による奇形①先天性風 4) 分娩損傷
4	3. 呼吸器疾患 1) 喘息 2) 細気管支炎 3) 肺炎 4) ウイルス感染か？細菌感染か？ 4. 消化器疾患 1) 乳児肥厚性幽門狭窄症 2) 腸重積症 3) 胆道閉鎖症
5	各論：5. アレルギー・免疫・膠原病 1) 気管支喘息 2) リウマチ熱 3) 若年性関節リウマチ 4) 川崎病
6	6. 血液疾患 1) 紫斑病 2) 播種性血管内凝固症候群 3) 急性リンパ性白血病 4) 主な小児悪性新生物 7. 内分泌疾患
7	8. 感染症 1) 麻疹 2) 風疹 3) 水痘 4) 流行性耳下腺炎 5) 手足口病 6) 百日咳 7) ワクチン 8) 食中毒と腸管感染症 9. 泌尿器疾患
8	10. 循環器疾患 1) 乳児うっ血性心不全 2) チアノーゼ 3) 心室中隔欠損症 4) 心房中隔欠損症 5) 動脈管開存症 6) 完全大血管転位症 7) 突然死を起こしやすい心疾患

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 7年度 PT学科					
		○							
授業科目名	リハビリテーション医学				担当者名	清水 圭悟			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期
						30			
授業概要	リハビリテーション医学では、まず、基礎となる学問体系を概説し、次に、対象となる脳や脊髄の損傷・障害、神経・筋疾患、発達障害、切断、関節リウマチを含む骨・関節疾患、各種内部疾患などに対する診断や治療の進め方を解説する。								
到達目標	①脳や脊髄の損傷・障害、神経・筋疾患、発達障害、切断、関節リウマチを含む骨・関節疾患、各種内部疾患などに対する診断や治療の進め方を理解できる。								
成績評価	①課題の提出状況、授業態度、出席状況 ②発表準備、発表内容、要約力 ③授業内容の理解、期末試験の成績 上記内容にて成績を評価しています。								
その他	清水圭悟（病院理学療法科において理学療法士として勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	なし		
参考図書	リハビリテーション医学 第3版	土肥信之	医歯薬出版

回数	授 業 計 画
1	脳血管障害および脳の疾患、脳性麻痺および小児疾患、脊髄損傷、二分脊椎、神経・筋疾患のリハビリテーションについて1)
2	脳血管障害および脳の疾患、脳性麻痺および小児疾患、脊髄損傷、二分脊椎、神経・筋疾患のリハビリテーションについて2)
3	関節リウマチ・膠原病、骨関節疾患のリハビリテーションについて1)
4	関節リウマチ・膠原病、骨関節疾患のリハビリテーションについて2)
5	切断と義肢のリハビリテーションについて1)
6	切断と義肢のリハビリテーションについて2)
7	循環器疾患、呼吸器疾患のリハビリテーションについて1)
8	循環器疾患、呼吸器疾患のリハビリテーションについて2)
9	糖尿病と肥満、末梢血行不全のリハビリテーションについて1)
10	糖尿病と肥満、末梢血行不全のリハビリテーションについて2)
11	疼痛性疾患、老化と障害、その他の疾患（悪性腫瘍・熱傷）のリハビリテーションについて1)
12	疼痛性疾患、老化と障害、その他の疾患（悪性腫瘍・熱傷）のリハビリテーションについて2)
13	合併症（1）廃用性症候群（2）過用症候群（3）褥瘡（4）肩手症候群（5）異所性骨化のリハビリテーションについて--1)
14	合併症（1）廃用性症候群（2）過用症候群（3）褥瘡（4）肩手症候群（5）異所性骨化のリハビリテーションについて--2)
15	合併症（1）廃用性症候群（2）過用症候群（3）褥瘡（4）肩手症候群（5）異所性骨化のリハビリテーションについて--2)

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
			○				令和 7年度		PT学科			
授業科目名	精神医学					担当者名		川原 潤基				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							30					
授業概要	精神疾患を症候学的分類に基づいて体系的に理解し、各疾患の概念から歴史的変遷や症状、治療と経過について、基本的知識を習得する。また、社会における精神医療の動向を学び、法制度や社会現象にみる精神保健の問題（自殺、薬物、犯罪、予防精神保健）から理学療法士が担うべき役割について理解し、説明できることを目的とする。											
到達目標	・精神医学の歴史と社会情勢における特色、精神医学の対象となる障害の概要を説明できる。 ・精神症状の分類と特徴について説明できる。 ・精神疾患それぞれの概念および出現する症状や経過を説明できる。											
成績評価	小テスト(20%)および期末試験(80%)の成績にて評価を行う。											
その他	川原 潤基（病院作業療法科において作業療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 精神医学	上野 武治 編集	医学書院
参考図書	標準精神医学 第9版	水野雅文/村井俊哉/明智龍男 編集	医学書院

回数	授 業 計 画
1	精神医学の概念、歴史、分類と診断について
2	統合失調症①概念、歴史、疫学について
3	統合失調症②症状、分類、経過・予後、治療について
4	うつ病①概念の歴史的変遷、疫学、診断について
5	うつ病②診断分類、経過・予後、治療について
6	双極性障害の概念、疫学、診断と診断分類、経過・予後、治療について
7	神経症性障害：不安症・解離症の概要、症状、経過・予後、治療について
8	神経症性障害：強迫症およびストレス因関連症の概要、症状、経過・予後、治療について
9	ストレス因関連症のまとめと睡眠覚醒障害について
10	摂食障害の概要、症状、経過・予後、治療について
11	物質関連障害および嗜癖性障害の概要、症状、経過・予後、治療について
12	てんかんの概要、発作型と症状、経過・予後、治療について
13	パーソナリティ障害の概要、類型、疫学、臨床的特徴について
14	発達障害の概要と各論（自閉症、注意欠如・多動症、限局性学習症、場面緘黙、ゲーム症）について
15	精神医療と社会（精神保健、地域精神医療、精神保健福祉法、司法精神医学）について

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校						
			○				令和 7年度		PT学科				
授業科目名	リハビリテーション概論					担当者名		中山 大貴					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次			
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
						30							
授業概要	リハビリテーションの定義、特殊性、歴史、障害論、医療チームにおける役割や関連職や社会的位置付けや医療専門職として必要な職業意識や倫理観を学ぶ。												
到達目標	①リハビリテーションの定義、特殊性、歴史、障害論、医療チームにおける役割や関連職や社会的位置付けを説明できる。 ②専門職として必要な職業意識や倫理観を理解できる。												
成績評価	課題の提出状況、発表会、期末試験の成績にて評価を行う。												
その他	中山大貴（病院理学療法科において理学療法士として勤務）												

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	なし		
参考図書	入門 リハビリテーション概論 第7版	中村隆一・佐直信彦 編	医歯薬出版

回数	授 業 計 画
1	1. リハビリテーション医学の定義
2	2. 障害とリハビリテーション医療関連職
3	3. インフォームド・コンセント、情報収集、問診
4	4. リハビリテーション職種の働き方（学外活動：就職フェア）
5	5. ノーマライゼーションについて
6	6. バリアフリーについて
7	7. ユニバーサルデザインについて
8	8. 発表会
9	9. 老化現象・高齢者
10	10. 脳血管障害 リハビリテーション専門職の考え方
11	11. 運動器障害 リハビリテーション専門職の考え方
12	12. 末梢神経障害、呼吸循環器障害、廃用症候群、小児疾患 リハビリテーション専門職の考え方
13	13. 問題点を中心としたカルテ記載法
14	14. 社会資源と社会保障 1) 社会資源資源、2) 社会保障、3) 法律
15	15. 地域包括ケアシステムについて

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 7年度 PT学科					
		○							
授業科目名	保健医療福祉制度論			担当者名		萩井 剛士			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
						30			
授業概要	保健・医療・福祉制度の基本構造や理念を理解し、理学療法士として社会の中での役割や責任を認識することを目的とする。制度の変遷や課題にも触れ、チーム医療や地域包括ケアシステムへの理解も深める。								
到達目標	①保健医療福祉のシステムについて説明できる ②わが国における医療供給体制と医療保障制度について説明できる								
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。								
その他	萩井剛士（病院作業療法科において作業療法士として勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	わかりやすい公衆衛生学	相模女子大学教授 安達修	スーヴ エルビロワ
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	1社会の変化と保健医療福祉 【人口動態，疾病罹患動態，保健医療福祉制度，歴史，法律】
2	2保健医療福祉制度の現状と改革の動向 【保健医療福祉システム，国，自治体，行政施策，改革動向】
3	3医療保険制度 【医療保障，医療保険，保険料，後期高齢者医療制度，診療報酬制度，国民医療費】
4	4介護保険制度 【介護保障，介護保険，介護認定，介護保険料，介護資源，ケア計画】
5	5医療福祉とソーシャルワーク 【ソーシャルワーク，ケースワーク，アドヴォカシー，当事者主義，地域生活支援，地域福祉資源】
6	6障害者における地域生活支援，支援モデルと多職種連携 【地域生活支援，障害構造，エンパワメント，医学モデル，生活モデル，社会モデル，自立支援法】
7	7慢性疾患・難病患者における地域生活支援 【地域生活支援，リハビリテーション，心理，家族】
8	8高齢者の地域生活支援(1) 【加齢による生活障害，ロコモティブシンドローム，廃用症候群，認知症】
9	9高齢者の地域生活支援(2) 【介護，介護支援，家族，介護負担， ケアマネジメント，ケアマネージャー】
10	10高齢者の地域生活支援(3) 【訪問リハビリテーション，通所リハビリテーション，入所リハビリテーション，医学的リハビリテーション，ショートスティ】
11	11精神保健と精神障害 【精神保健施策，精神疾患，精神障害，精神障害者支援，リカバリー，ケースマネジメント】
12	12ターミナルケアと医療福祉 【ターミナルケア，緩和ケア，全人的アプローチ，死】
13	13小児関連の保健医療福祉 【母子保健，子育て支援，発達障害，教育，リハビリテーション】
14	14保健予防・健康増進 【健康，疾病，ライフスタイル】
15	15保健予防・健康増進 【社会，Q.O.L 寿命，活動能力，生活体力】

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		令和 7年度		PT学科			
授業科目名	理学療法概論Ⅰ					担当者名		柿原 隆聡				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	2	0			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
						30						
授業概要	理学療法および理学療法士への理解を深めることを目標に以下の内容について学ぶ。 ①理学療法の歴史や定義を通して、我が国における理学療法の概要を理解する。②理学療法とリハビリテーションとの関連を説明できる。③理学療法士の役割や業務内容を理解する。④我が国における医療保険ならび介護保険制度などの社会保障制度について理解を深める。											
到達目標	①理学療法の歴史や定義を通して、我が国における理学療法の概要を理解する。 ②理学療法とリハビリテーションとの関連を説明できる。 ③理学療法士の役割や業務内容を理解する。 ④我が国における医療保険ならび介護保険制度などの社会保障制度について理解を深める。											
成績評価	筆記試験・レポートにより評価する。											
その他	柿原隆聡（病院理学療法科において理学療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	理学療法概論テキスト改訂4版	中島喜代彦/森田正治/久保田章仁	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション なぜ理学療法士を目指そうと思ったか（グループ討議）
2	理学療法の歴史と定義
3	世界の理学療法の定義：英語の辞書持参
4	理学療法とリハビリテーション：リハビリテーションとは ノーマライゼーション リハビリテーションの種類
5	理学療法を構成する各種技術
6	医療場面での理学療法の実際：特に評価に意義
7	理学療法を構成する各種技術（物理療法）物理療法機器の操作・体験
8	理学療法を構成する各種技術（運動療法①） 各種運動療法機器の操作・体験
9	理学療法を構成する各種技術（運動療法②） 腰痛体操などの各種体操の実践
10	理学療法を構成する各種技術（日常生活活動訓練） 各種機器の操作・使用体験
11	理学療法を構成する各種技術（補装具）と環境整備
12	クリニカルパスについて 診療ガイドラインについて
13	理学療法と障害：障害の医学モデルならびに社会モデル 国際障害分類から国際生活機能分類へ
14	国際生活機能分類（ICF）と理学療法士
15	制度と法規からみる理学療法士の役割

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	理学療法概論Ⅱ					担当者名		中山 大貴			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2	0			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							30				
授業概要	理学療法および理学療法士への理解を深めることを目標に以下の内容について学ぶ。①理学療法士の活躍の場を理解する。②理学療法士に關係する法律を知る。③理学療法士教育の現状を、諸外国との比較を通して理解する。④理学療法の研究法について理解を深める。⑤理学療法士に必要な管理運営を知る。										
到達目標	①理学療法士の活躍の場を説明できる。 ②理学療法士に關係する法律を説明できる。 ③理学療法士教育の現状を、諸外国との比較を通して説明できる。 ④理学療法の研究法について理解を深める。⑤理学療法士に必要な管理運営を説明できる。										
成績評価	フィールドワークの発表および筆記試験により評価する。										
その他	中山大貴（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	理学療法概論テキスト改訂4版	中島喜代彦/森田正治/久保田章仁	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	理学療法士の活躍の場：医療現場
2	理学療法士の活躍の場：保健・福祉現場, 教育・研究現場 スポーツの場
3	医療介護現場にて理学療法士に求められる技術
4	医療介護現場にて理学療法士に求められる接遇技法
5	医療介護現場にて理学療法士に求められるコミュニケーション技法
6	理学療法士と地域の関わり（学外活動）
7	理学療法（士）と教育、研究
8	理学療法士及び作業療法士法, 管理や運営（診療報酬, リスク管理）
9	地域包括ケアと理学療法士
10	理学療法士と福祉用具・住宅改修
11	通所リハビリテーションおよび訪問リハビリテーションについて
12	産業理学療法および労働衛生・フレイル・サルコペニアについて
13	フィールドワーク①（ICFについて）
14	フィールドワーク③（集団体操について）
15	ICFについての報告会

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	臨床運動学					担当者名		早川 智之			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	正常および異常な動作や歩行に関する力学的視点を学習する。重心、床反力、関節の動き、筋活動などを理解し、動作観察や分析を通じて臨床的な評価力と問題解決能力を育成する。										
到達目標	①重心や力の作用、筋活動を理解し、歩行や基本動作の正常・異常を力学的に説明できる。 ②動作観察や分析を通じて、症例に対する問題点を整理することができる。										
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。										
その他	早川智之（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	実践！動作分析	上杉雅之	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	力の合成と分解、テコの特徴
2	重心の求め方、重心の速度・加速度
3	重心と床反力作用点
4	基本姿勢・動作について
5	正常歩行における歩行周期と重心軌道
6	正常動作に生じる力
7	正常歩行における筋活動
8	関節可動域制限・筋力低下に伴う異常歩行
9	正常歩行のバイオメカニクス
10	ホッピング動作について
11	動作観察・分析について
12	グループワーク1【症例振り分け 発表準備】
13	グループワーク2【症例検討①】
14	グループワーク3【症例検討②】
15	臨床運動の応用

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 7年度 PT学科					
			○						
授業科目名	理学療法管理学					担当者名	柿原 隆聡		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
									30
授業概要	医療・介護に関わる理学療法士として知らなくてはならない保健、医療、福祉に関する制度について理解を深め、さらに、制度のなかで理学療法士がより活躍できるようにするための政策提言などの方法についても理解する。								
到達目標	①保健、医療、福祉に関する制度について理解を深める。 ②制度のなかで理学療法士がより活躍できるようにするための政策提言などの方法について理解する。								
成績評価	試験により評価する。								
その他	柿原隆聡（病院理学療法科において理学療法士として勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	理学療法管理学 良質な医療・介護提供のための管理運営・政策論	監修：植松光俊 編集：中川法一/ 田中昌史	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	管理運営概論①
2	管理運営概論②
3	良質な医療の提供
4	理学療法士の働く場所と今後の展望（学外活動：就職フェア）
5	臨床現場におけるデータ管理、ビッグデータと政策
6	医療・介護の制度と報酬
7	政策とその形成過程
8	医療・介護の財政および制度と保険点数
9	理学療法士の身分法とその職能団体
10	理学療法士の業務と政治活動の必要性
11	職域拡大とその背景
12	職域拡大の現状と方向性
13	進路に応じた制度的視点と課題探究（学外授業）
14	社会情勢を踏まえた未来への開拓
15	まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	理学療法評価法Ⅰ					担当者名		畑田 桜、田中 創、藤田 慎矢			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1		1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						60					
授業概要	運動機能や日常生活活動など対象者の状態を科学的・客観的に把握するための評価法を学び、適切なリハビリテーション計画の立案・実施・再評価につなげる能力を養うことを目的とする。										
到達目標	①理学療法に必要な検査・測定の目的や意義、方法について原則的な事項を学習し、各種疾患の評価方法の基礎知識と技術を修得する。 ②評価の目的、情報の収集と分析、治療プログラム、到達ゴール等の評価の過程、評価の進め方と時期、評価の記録と報告、必要器具、評価実施上の留意点を検査項目ごとに説明できる。										
成績評価	普段の授業で出す課題の内容評価、実技試験、期末試験にて総合的に評価する。										
その他	畑田桜、田中創、藤田慎矢（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	リハビリテーション基礎評価学 第2版	潮見泰藏, 下田信明	羊土社
参考図書	新・徒手筋力検査法 原著第10版	Helen J. Hislop, Dale Avers他	協同医書出版社

回数	授 業 計 画
1	痛みの検査（痛みの定義、痛みの種類と特性、痛みの臨床的評価スケール）（田中創）4/17 1限目
2	痛みの検査（痛みの検査の一般的手順、問診、運動検査、触診検査、記録）（田中創）4/17 2限目
3	痛みの検査（痛みの評価方法）演習（田中創）4/24 1限目
4	痛みの検査（痛みの検査の臨床的意義）（田中創）4/24 2限目
5	関節可動域測定（総論）（藤田）5/1 1限目
6	（実技）関節可動域測定（股関節）（藤田）5/1 2限目
7	（実技）関節可動域測定（膝関節・足関節）（藤田）5/8 1限目
8	（実技）関節可動域測定（手指・足趾）（藤田）5/8 2限目
9	（実技）関節可動域測定（体幹・手指・足趾）（隅田）5/15 1限目
10	（実技）関節可動域測定（体幹）（隅田）5/15 2限目
11	（実技）関節可動域測定実技練習（下肢まとめ）（隅田）5/22 1限目
12	（実技）関節可動域測定実技練習（頸部・体幹まとめ）（隅田）5/22 2限目
13	（実技）関節可動域測定実技練習（手指、足趾まとめ）（藤田）5/29 1限目
14	関節可動域測定（臨床的意義）（藤田）5/29 2限目
15	（実技）関節可動域測定（肩甲帯）（畑田）6/5 1限目
16	関節可動域測定（臨床的意義）（藤田）6/5 2限目

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	理学療法評価法Ⅰ					担当者名		畑田 桜、田中 創、藤田 慎矢			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1		1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
						60					

[illegible]

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	理学療法評価法Ⅱ					担当者名		畑田 桜、田中 創、隅田 涼平、木村 尚道			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1		1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							60				
授業概要	理学療法評価法で習得した各評価項目を実践できるようになることである。理学療法に必要な検査・測定について原則的な事項を学習し、各種疾患の評価方法の基礎知識と技術を学ぶ。評価の目的、情報の収集と分析、治療プログラム、到達ゴール等の評価の過程、評価の進め方と時期、評価の記録と報告、必要器具、評価実施上の留意点。四肢長、周径計測、関節可動域測定、反射検査、知覚検査などの実習を行う。										
到達目標	①理学療法に必要な検査・測定の目的や意義、方法について学習し理解できる。 ②各種疾患の評価方法の基礎知識と技術を修得し、実践できる。 ③情報収集から治療実施、再評価までの全体的な理学療法の流れを理解し説明できる。 ④評価の目的、情報の収集と分析、治療プログラム、到達ゴール等の評価の過程、評価の進め方と時期、評価の記録と報告、必要器具、評価実施上の留意点を検査項目ごとに説明できる。										
成績評価	課題の提出状況、実技試験、期末試験の成績にて評価を行う。										
その他	畑田桜、田中創、木村尚道、隅田涼平（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	リハビリテーション基礎評価学 第2版	潮見泰蔵, 下田信明	羊土社
参考図書	新・徒手筋力検査法 原著第10版	Helen J. Hislop, Dale Avers他	協同医書出版社

回数	授 業 計 画
1	感覚検査の意義（感覚検査の目的、感覚検査から得られる情報、感覚検査の種類（木村） 9/11 3限目
2	感覚検査実技（記録法、感覚検査測定の実際、触覚・温度覚・痛覚検査）（木村） 9/11 4限目
3	感覚検査（深部感覚・位置覚感覚・運動覚・関節覚・複合感覚主な疾患の感覚障害）（木村） 9/18 3限目
4	感覚検査のまとめ（木村） 9/18 4限目
5	協調性検査（協調性とは、協調性を支えるメカニズム、神経学的メカニズム、協調性の障害と症状、運動失調症の診わけ方）（隅田） 9/25 3限目
6	協調性検査（協調性とは、協調性を支えるメカニズム、神経学的メカニズム、協調性の障害と症状、運動失調症の診わけ方）（隅田） 9/25 4限目
7	協調性検査の実際（実技）四肢の一般的運動失調検査（隅田） 10/2 3限目
8	協調性検査まとめ（隅田） 10/2 4限目
9	筋緊張の検査（筋緊張とは、正常と異常の定義、筋緊張異常を認める中枢神経疾患とその病態、評価結果の解釈と臨床的意義（木村） 10/9 3限目
10	筋緊張の検査（筋緊張異常検査、筋緊張検査の注意点）（木村） 10/9 4限目
11	画像（総論）（田中創） 10/16 3限目
12	画像（整形外科分野、レントゲン検査、MRI、CT、超音波エコー）（田中創） 10/16 4限目
13	整形外科的テスト（脊椎）（田中創） 10/23 3限目
14	整形外科的テスト（上肢）（田中創） 10/23 4限目
15	徒手筋力検査（MMT）（筋力とは、筋力測定の意義、MMTの目的、MMTの信憑性と妥当性、MMT実施上の留意点、MMTの結果に及ぼす因子）（畑田） 12/4 3限目
16	MMT実技（股関節屈曲、股関節伸展、股関節外転）（畑田） 12/4 4限目

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	理学療法評価法Ⅱ					担当者名		畑田 桜、田中 創、隅田 涼平、木村 尚道			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1		1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							60				

[illegible]

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	日常生活活動学					担当者名		柿原 聡隆			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1		1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			
授業概要	理学療法における日常生活活動の概念および基本的な考え方ならびに日常生活活動の評価、基本動作訓練・指導を学ぶ。										
到達目標	①日常生活活動の概念と範囲を理解する。 ②日常生活の評価を理解する。 ③基本動作の定義・分類を知り、実技にて介助方法を修得する。 ④複合動作の指導ポイントや移動動作を実施説明できる。 ⑤リハビリテーション支援機器を理解する。 ⑥疾患特性による日常生活指導方法を実施できる。										
成績評価	課題の提出状況、実技試験、期末試験の成績にて評価を行う。										
その他	柿原 聡隆（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	理学療法学テキストⅤ 日常生活活動（ADL）第2版		神陵文庫
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	日常生活活動の概念と範囲、QOLの概念
2	ICIDHとICFの関連性と特徴
3	日常生活の評価①
4	日常生活の評価②
5	基本動作の分類と定義①(実技含む。) 姿勢の分類実施
6	基本動作の分類と定義②(実技含む。) 寝返り・起き上がり
7	基本動作の介助方法(実技含む。) 寝返り・起き上がり
8	基本動作の分類と定義③(実技含む。) 起立・歩行
9	基本動作の介助方法(実技含む。) 起立・歩行
10	複合動作指導のポイント①（実技含む。）
11	複合動作指導のポイント②（実技含む。）
12	複合動作指導のポイント③（実技含む。）
13	車いす・松杖使用による学外授業①
14	車いす・松杖使用による学外授業②
15	学外授業内容のまとめ①
16	学外授業内容のまとめ②

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	日常生活活動学					担当者名		柿原 聡隆			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1		1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			

[illegible]

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
			○	令和 7年度	PT学科				
授業科目名	運動療法 I			担当者名	柿原 聡隆、田中 創、隅田 涼平、藤田 慎矢、綿谷 昌明				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	1		1		授業時間数	前期	後期	前期	後期
							60		
授業概要	基本となる障害のエビデンスを理解することを学ぶ。基本となる障害に対する具体的な理学的アプローチのエビデンスを学び、その技法の理論を習得した運動療法の延長から、技法の実践を学ぶ。								
到達目標	①基本となる障害（関節可動域制限、筋力低下、痛み、感覚障害）のエビデンスを理解する。 ②各疾患に対する具体的な理学的アプローチのエビデンスを学び、その技法を実践できる。								
成績評価	出席状況、授業態度、小テスト、課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。								
その他	柿原 聡隆、田中 創、隅田 涼平、藤田 慎矢、綿谷 昌明（病院理学療法科において理学療法士として勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	運動療法学 第2版	市橋則明（編）	文光堂
参考図書	疼痛医学 第1版	田口敏彦 飯田宏樹 牛田享宏（編）	医学書院

回数	授 業 計 画
1	痛みに対する運動療法の理論 ①
2	痛みに対する運動療法の理論 ②
3	痛みに対する運動療法 ①
4	痛みに対する運動療法 ②
5	筋力低下に対する運動療法の理論 ①
6	筋力低下に対する運動療法の理論 ②
7	筋力低下に対する運動療法 ①
8	筋力低下に対する運動療法 ②
9	ROM制限に対する運動療法の理論 ①
10	ROM制限に対する運動療法の理論 ②
11	ROM制限に対する運動療法 ①
12	ROM制限に対する運動療法 ②
13	まとめ ①
14	まとめ ②
15	まとめ ③
16	ガイダンスおよび総論

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	令和 7年度	九州医療スポーツ専門学校				
					○		PT学科				
授業科目名	運動療法 I					担当者名	柿原 聡隆、田中 創、岡田 涼平、藤田 慎矢、綿谷 昌明				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次		3年次		
単位数	1		1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			

[illegible]

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		令和 7年度		PT学科			
授業科目名	運動療法Ⅱ					担当者名		柿原 聡隆、藤田 慎矢、田中 創、隅田 涼平、木村 尚道				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等		1年次		2年次		3年次	
単位数	1		1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									60			
授業概要	基本となる障害に対する具体的な理学的アプローチのエビデンスを学び、その技法の理論を習得する。 基本となる障害に対する具体的な理学的アプローチのエビデンスを学び、その技法の理論を習得した運動療法Ⅰの延長から、技法の実践を説明できるようになる。											
到達目標	①基本となる障害（協調性障害、運動障害、バランス障害、全身状態低下）のエビデンスを理解する。 ②各疾患に対する具体的な理学的アプローチのエビデンスを学び、その技法を実践できる。											
成績評価	出席状況、授業態度、小テスト、課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。											
その他	柿原聡隆、藤田慎矢、田中 創、木村尚道、隅田涼平（病院理学療法科において理学療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	運動療法学 第2版	市橋則明（編）	文光堂
参考図書	理学療法テキスト運動療法学	石川朗（総編）	中山書店

回数	授 業 計 画
1	バランス障害に対する運動療法の理論 ① （木村）
2	バランス障害に対する運動療法の理論 ② （木村）
3	バランス障害に対する運動療法 ① （木村）
4	バランス障害に対する運動療法 ② （木村）
5	姿勢障害に対する運動療法の理論 ① （隅田）
6	姿勢障害に対する運動療法の理論 ② （隅田）
7	姿勢障害に対する運動療法 ① （隅田）
8	姿勢障害に対する運動療法 ② （隅田）
9	全身状態低下に対する運動療法の理論 （木村）
10	全身状態低下に対する運動療法 （木村）
11	協調性運動障害に対する運動療法の理論 ① （田中）
12	協調性運動障害に対する運動療法の理論 ② （田中）
13	協調性運動障害に対する運動療法の理論 ③ （藤田）
14	協調性運動障害に対する運動療法① （藤田）
15	運動麻痺に対する運動療法の理論 ① （柿原）
16	運動麻痺に対する運動療法の理論 ② （柿原）

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	運動療法Ⅱ					担当者名		柿原 聡隆、藤田 慎矢、田中 創、隅田 涼平、木村 尚道			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1		1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									60		

回数	授 業 計 画	
17	運動麻痺に対する運動療法の理論 ③	(柿原)
18	運動麻痺に対する運動療法の理論 ④	(柿原)
19	運動麻痺に対する運動療法①	(柿原)
20	協調性運動障害に対する運動療法②	(田中)
21	運動麻痺に対する運動療法②	(柿原)
22	感覚障害に対する運動療法の理論 ①	(柿原)
23	感覚障害に対する運動療法の理論 ②	(柿原)
24	感覚障害に対する運動療法の理論 ③	(柿原)
25	感覚障害に対する運動療法①	(柿原)
26	感覚障害に対する運動療法②	(柿原)
27	まとめ	(柿原)
28	まとめ	(柿原)
29	まとめ	(柿原)
30	まとめ	(柿原)

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		令和 7年度		PT学科			
授業科目名	物理療法					担当者名		岩田 芳典、中山 大貴				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1		1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30	30			
授業概要	物理療法は、熱、水、電気、光、徒手などの物理的エネルギーを人体に用いる治療法であり、患部の疼痛の緩和、循環の改善、リラクゼーションなどを目的としている。講義では物理的エネルギー（熱・水・持続的他動運動）と生体反応などに関して解説し、種々の物理療法機器の特性を理解できるように学ぶ。											
到達目標	①物理療法に用いられる各種物理的エネルギー（熱・水・電気・光・徒手など）の作用機序と生体への影響を説明できる。 ②代表的な物理療法機器の特性と適応・禁忌を理解し、臨床での適切な選択と安全な使用法について説明できる。											
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。											
その他	岩田芳典、中山大貴（病院理学療法科において理学療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	エビデンスから身につける物理療法 第2版	庄本康治	羊土社
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション 物理療法学総論
2	炎症
3	組織修復
4	痛み 急性痛
5	痛み 慢性痛
6	温熱療法 総論 生理学的作用
7	温熱療法 適応と禁忌 ホットパック パラフィン浴
8	温熱療法 超短波 極超短波
9	温熱療法 前半復習
10	超音波 総論
11	超音波 生理学的作用 適応と禁忌（実技）
12	寒冷療法 総論
13	寒冷療法 生理学的作用 適応と禁忌
14	国家試験出題問題
15	前半まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		令和 7年度		PT学科			
授業科目名	物理療法					担当者名		岩田 芳典、中山 大貴				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	1		1		授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
								30	30			
授業概要	物理療法は、熱、水、電気、光、徒手などの物理的エネルギーを人体に用いる治療法であり、患部の疼痛の緩和、循環の改善、リラクゼーションなどを目的としている。講義では物理的エネルギー（超音波・牽引・光・電気）と生体反応などに関して解説し、種々の物理療法機器の特性を理解できるように学ぶ。											
到達目標	①超音波、牽引、光線療法、電気刺激などの物理的エネルギーが生体に与える作用機序を理解し、目的別に説明できる。 ②各種物理療法機器の特性・適応・禁忌を理解し、臨床における適切な選択と安全な使用方法について説明できる。											
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。											
その他	岩田芳典、中山大貴（病院理学療法科において理学療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	エビデンスから身につける物理療法 第2版	庄本康治	羊土社
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	光線療法 総論 生理学的作用
2	光線療法 適応と禁忌
3	光線療法 赤外線、紫外線、レーザー
4	電気刺激療法 総論 生理学的作用
5	電気刺激療法 目的と効果 適応と禁忌
6	電気刺激療法 治療的電気刺激療法（実技）
7	電気刺激療法 経皮的末梢神経電気刺激療法 干渉波電気刺激療法 機能的電気刺激療法
8	牽引療法 総論 生理学的作用 適応と禁忌
9	水治療法 総論 生理学的作用
10	水治療法 適応と禁忌
11	水治療法 渦流浴 プール浴
12	持続的他動運動療法
13	振動療法
14	国家試験出題問題
15	まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	義肢装具学					担当者名		峰 剛樹			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			
授業概要	義肢装具に関する基本的事項を学習し、特に装具の特性と構造を理解する。 各切断レベルに対応する義足の適合判定と異常歩行を学習し断端管理法、義肢装着練習など切断リハビリテーションに関する知識を修得する。 疾患ごとの装具の種類、適合判定、リハビリテーションとの関係などを習得する。										
到達目標	①義肢装具に関する基本的事項を学習し、特に装具の特性と構造を理解できる。 ②各切断レベルに対応する義足の適合判定と異常歩行を学習し断端管理法、義肢装着練習など切断リハビリテーションについて説明できる。 ③疾患ごとの装具の種類、適合判定、リハビリテーションとの関係について説明できる。										
成績評価	期末試験の成績にて評価を行う。										
その他	峰剛樹（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	CrossLink 理学療法学テキスト 義肢装具学	廣滋恵一 遠藤正英	メジカルビュー社
参考図書	脳卒中の装具のミカタ	松田雅弘 遠藤正英	医学書院

回数	授 業 計 画
1	義肢装具の役割を理解する。
2	義肢装具の支給体系を理解する。
3	義肢装具の製作過程を理解する。
4	切断の原因、手術、術後のケアを理解する。
5	義手の構造を理解する。
6	上腕切断のリハビリテーションについて理解する。
7	前腕切断のリハビリテーションについて理解する。
8	義足の分類を理解する。
9	義足の分類を理解する。
10	大腿切断のリハビリテーションを理解する。
11	下腿切断のリハビリテーションを理解する。
12	スポーツ義足の現状とリハビリテーションを理解する。
13	装具の種類、構造を理解する。
14	脳卒中片麻痺の特徴を理解する。
15	脳卒中片麻痺の装具を理解する。
16	脊髄損傷の特徴を理解する。

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	義肢装具学					担当者名		峰 剛樹			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								60			

[illegible]

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	各論理学療法Ⅰ					担当者名		中山 大貴			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	0	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	神経系疾患における理学療法について、現在よく行われているいくつかの治療概念に触れ、その理論的背景について知る。また、評価と治療（脳血管障害・パーキンソン病）の進め方について学習する。										
到達目標	①神経系疾患における理学療法について、現在よく行われているいくつかの治療概念、その理論的背景について説明できる。 ②神経系疾患に対する評価と治療（脳血管障害・パーキンソン病）の進め方について説明できる。										
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。										
その他	中山大貴（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	病気がみえる 7 脳・神経 第2版	医療情報科学研究所	メディックメディア
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	脳神経疾患理学療法の脳神経科学の重要性と脳神経科学の理学療法への応用
2	脳血管障害の病態と症候
3	画像所見（頭部CTの見方）①
4	画像所見（頭部MRIの見方）②
5	画像所見（頭部MRIの見方）③
6	画像所見（頭部MRIと理学療法評価・治療の統合）④
7	脳血管障害における運動麻痺の評価方法
8	中間試験と振り返り
9	実技試験と振り返り
10	Parkinsonの病態と症候
11	Parkinsonの病態と症候
12	筋萎縮性側索硬化症の病態と症候
13	多発性硬化症の病態と症候
14	ギランバレー症候群の病態と症候
15	まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	各論理学療法Ⅱ					担当者名		中山 大貴			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	0	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		
授業概要	神経系疾患における理学療法について、現在よく行われているいくつかの治療概念に触れ、その理論的背景について知る。また、評価と治療（脊髄小脳変性症）の進め方について学習する。またボバース法、PNF法、CI療法、高次神経障害への理学療法、中枢疾患のリスク管理などについて、どのようなエビデンスに基づいて行われているのか最新の知見を交えて学ぶ。										
到達目標	①ボバース法、PNF法、CI療法、高次神経障害への理学療法、中枢疾患のリスク管理などについて、どのようなエビデンスに基づいて行われているのかについて理解できる。 ②症例を通して理学療法の展開を理解できる。										
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。										
その他	中山大貴（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	病気がみえる 7 脳・神経 第2版	医療情報科学研究所	メディックメディア
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	中枢疾患のリスク管理
2	運動麻痺の発生メカニズム
3	運動麻痺の理学療法評価
4	運動麻痺の理学療法の実践
5	感覚障害の神経機構と障害メカニズム
6	異常筋緊張（筋緊張の神経機構）
7	パーキンソン病の理学療法
8	脊髄小脳変性症の理学療法
9	筋萎縮性側索硬化症の理学療法
10	脱髄疾患の理学療法
11	PBL：変性疾患の評価と理学療法（パーキンソン病）
12	PBL：変性疾患の評価と理学療法（脊髄小脳変性症）
13	PBL：神経筋疾患の理学療法（筋萎縮性側索硬化症）
14	PBL：神経筋疾患の理学療法（多発性硬化症）
15	PBL：経筋疾患の理学療法（Guillain-Barre症候群）

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校 PT学科							
					○		令和 7年度							
授業科目名	各論理学療法Ⅲ						担当者名		松坂 洋一、阿部光司、河野亨太、長濱久美子、浅井萌					
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等		1年次		2年次		3年次			
単位数	0	1			授業時間数		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
										30				
授業概要	小児の運動機能障害が出現する代表的な疾患の症状の理解を踏まえ、その障害に特有な評価方法及び理学療法について学習する。													
到達目標	小児における代表的な運動機能障害（例：脳性麻痺、二分脊椎、筋ジストロフィーなど）の病態と臨床症状を説明できる。 各疾患に特有な運動機能評価方法（例：GMFCS、AIMS、PEDIなど）を理解し、目的に応じた評価法を選択・実施できる。 各疾患の障害特性に応じた理学療法の基本的アプローチ（運動療法、日常生活支援、装具療法、環境調整など）を具体的に説明できる。 小児の発達段階や家族背景を考慮した理学療法の実践的視点を理解し、チーム医療の中での理学療法士の役割を認識できる。													
成績評価	試験によって評価する													
その他	阿部光司、河野亨太、長濱久美子、浅井萌（病院理学療法科において理学療法士として勤務）													

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	小児理学療法学テキスト 改訂第3版	田原弘幸	南江堂
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	発達障害系理学療法概論 （阿部）9/26
2	脳性麻痺総論（定義、病型分類、麻痺部位、二次障害） （阿部）9/26
3	脳性麻痺の評価① （河野）10/3
4	脳性麻痺の評価② （河野）10/3
5	脳性麻痺各論（理学療法評価と治療/痙直型） （阿部）10/10
6	脳性麻痺各論（理学療法評価と治療/アテトーゼ型・失調） （阿部）10/10
7	前半まとめとテスト （畑田）10/17
8	小児整形外科治療における理学療法 （阿部）10/24
9	小児理学療法における装具・補装具 （阿部）10/24
10	重症心身障害児（者）の理学療法 （浅井）12/5
11	小児整形外科疾患の理学療法（二分脊椎等） （浅井）12/5
12	小児神経筋疾患の理学療法（筋ジストロフィー） （長濱）12/12
13	小児神経筋疾患の理学療法（脊髄性筋萎縮症） （長濱）12/12
14	症例検討① （阿部・河野・長濱・浅井）12/20（土）
15	症例検討② （阿部・河野・長濱・浅井）12/20（土）
15	P B L：経筋疾患の理学療法（Guillain-Barre症候群）

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	各論理学療法Ⅳ					担当者名		田中 創、木村 尚道、隅田 涼平			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	0	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								30			
授業概要	整形外科疾患に対する理学療法評価の基本をしっかりと認識したのちに、骨軟骨障害や関節軟部組織障害ならびに関節構造に由来する障害に対する適切な理学療法の評価と治療を学習する。										
到達目標	各疾患において骨軟骨障害や関節軟部組織障害ならびに関節構造に由来する障害に対する適切な理学療法の評価と治療を説明できる。										
成績評価	出席状況・授業への参加意欲や態度、提出物、定期試験を総合的に評価する。										
その他	田中創、木村尚道、隅田涼平（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	運動器障害理学療法学テキスト 改定第3版	細田多穂（監）、高柳清美 他3名	南江堂
参考図書	標準整形外科学	松野丈夫、中村利孝	医学書院

回数	授 業 計 画
1	(1) 整形外科疾患とは (2) 整形外科疾患と障害 (3) 整形外科疾患と理学療法(評価と治療)
2	理学療法評価の流れ：(1) 処方吟味 (2) 情報収集 (3) 情報の分析・解釈・統合 (4) 課題の抽出
3	理学療法評価の流れ：(5) 目標設定 (6) 理学療法プログラムの立案 (7) 理学療法の実施 (8) 再評価
4	理学療法評価での情報集収：(1) 問診（既往歴・家族歴・職業歴・生活歴含め） (2) 視診/触診
5	理学療法評価での情報集収：(3) 四肢長・周径 (4) ROM検査 (5) 感覚検査 (6) 反射検査
6	理学療法評価での情報集収：(7) 筋力検査 (8) 痛みの検査 (9) 治療成績判定基準と機能評価法
7	骨・軟骨障害：(3) 変形性膝関節症（保存療法）1に対する理学療法
8	骨・軟骨障害：(3) 変形性膝関節症（保存療法）2に対する理学療法
9	中間試験とまとめ
10	骨・軟骨障害：(4) 変形性膝関節症（手術療法）に対する理学療法
11	骨・軟骨障害：(5) 変形性股関節症（保存療法）に対する理学療法
12	関節軟部組織性障害：(1) 膝関節の靱帯損傷・半月板損傷の理解と理学療法①
13	関節軟部組織性障害：(2) 膝関節の靱帯損傷・半月板損傷の理解と理学療法②
14	関節軟部組織性障害：(3) 足関節の靱帯損傷の理解と理学療法①
15	関節軟部組織性障害：(4) 足関節の靱帯損傷の理解と理学療法②

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 7年度 PT学科					
			○						
授業科目名	各論理学療法Ⅴ					担当者名	藤田 慎矢、栗木 康介、木村 尚道、隅田 涼平		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	0	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期
								30	
授業概要	各論理学療法Ⅳ（整形）に引き続き、整形外科疾患に対する理学療法評価の基本を認識しながら、骨性障害や筋・軟部組織性障害、ならびに運動単位性障害や脊椎障害、複合障害に対する適切な理学療法の評価と治療を学習する。								
到達目標	各疾患において骨性障害や筋・軟部組織性障害、ならびに運動単位性障害や脊椎障害、複合障害に対する適切な理学療法の評価と治療を説明できる。								
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。								
その他	藤田慎矢、木村尚道、隅田涼平（病院理学療法科において理学療法士として勤務）、栗木康介（病院作業療法科において作業療法士として勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	運動器障害理学療法学テキスト 改定第3版	細田多穂（監）、高柳清美 他3名	南江堂
参考図書	標準整形外科学	標準整形外科学	医学書院

回数	授 業 計 画
1	骨性障害：(1) 骨折総論と理学療法 (隅田)
2	骨性障害：(2) 大腿骨頸部骨折、転子部骨折（術前・術後）に対する理学療法 (藤田)
3	骨性障害：(3) 下肢骨折(大腿骨骨幹部・大腿骨遠位部・脛骨高原・膝蓋骨)に対する理学療法(藤田)
4	骨性障害：(4) 上肢骨折(上腕骨近位・上腕骨骨幹部・上腕遠位・コレス)に対する理学療法 (栗木)
5	骨性障害：(5) 脊椎骨折（脱臼骨折・圧迫骨折）に対する理学療法 (木村)
6	筋・軟部組織性障害：(1) テニス肘，野球肘，手根管症候群に対する理学療法 (栗木)
7	筋・軟部組織性障害：(2) 肩関節周囲炎に対する理学療法 (隅田)
8	まとめ (隅田)
9	筋・軟部組織性障害：(3) 筋断裂・アキレス腱断裂標に対する理学療法 (隅田)
10	末梢神経障害：①橈骨神経麻痺 ②尺骨神経麻痺 ③正中神経麻痺 ④腕神経麻痺 ⑤腓骨神経麻痺に対する理学療法 (栗木)
11	脊椎性障害：頸椎椎間板ヘルニア，頸部脊柱管狭窄症に対する理学療法 (木村)
12	脊椎性障害：急性腰痛・腰椎椎間板ヘルニア，腰部脊柱管狭窄症に対する理学療法 (木村)
13	複合障害：関節リウマチの理解と理学療法 (木村)
14	症例検討（変形性関節症について） (隅田)
15	症例検討（骨性障害について） (藤田)

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	各論理学療法Ⅵ					担当者名		早川 智之			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	0	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									15		
授業概要	脊髄損傷の症状・評価、基本動作、ADL、理学療法の考え方を学習する。中枢神経系の理解を深め、臨床で求められる評価・介入の視点を養うことを目的とする。										
到達目標	①脊髄損傷の病態や評価について説明できる。 ②脊髄損傷の障害レベルに応じた基本動作やADLについて説明できる。										
成績評価	小テストや課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。										
その他	早川 智之（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	特になし(教員が資料を作成し配布します)		
参考図書	脊髄損傷理学療法マニュアル（第3版）	岩崎 洋	文光堂

回数	授 業 計 画
1	脊髄損傷の概略
2	脊髄損傷の障害評価（損傷・神経症状レベル）
3	脊髄損傷の膀胱・直腸障害
4	脊髄損傷の随伴症状と合併症
5	脊髄損傷の自律神経障害
6	脊髄損傷の基本動作
7	脊髄損傷のADL
8	脊髄損傷に対する理学療法

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		令和 7年度		PT学科			
授業科目名	各論理学療法Ⅶ					担当者名		峰 剛樹				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	0	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									30			
授業概要	呼吸器の機能、呼吸リハビリテーションの必要な病態、対象疾患について学ぶ。呼吸機能の評価、呼吸障害のリハビリテーションについて学ぶ。運動療法、在宅酸素療法について学ぶ。疾患別呼吸リハビリテーションについて学ぶ。											
到達目標	①呼吸器の機能、呼吸リハビリテーションの必要な病態、対象疾患について学ぶ。呼吸機能の評価、呼吸障害のリハビリテーションについて理解し、運動療法、在宅酸素療法について説明できる。 ②疾患別呼吸リハビリテーションについて説明できる。											
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。											
その他	峰剛樹（病院理学療法科において理学療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	最新理学療法講座 内部障害理学療法学	船見敬成	文光堂
参考図書	病気がみえる4呼吸器、理学療法アクティブ・ラーニング・テキスト 内部障害理学療法学	医療情報科学研究所、高橋哲也	メディックメディア、医歯薬

回数	授 業 計 画
1	呼吸リハビリテーション総論
2	呼吸器系の解剖学・運動学
3	呼吸器系の生理学
4	呼吸不全の病態と呼吸器疾患
5	呼吸障害の評価（医療面接とフィジカルアセスメント）
6	呼吸障害の評価（その他の評価法）
7	呼吸理学療法基本手技（コンディショニング）
8	呼吸理学療法基本手技（排痰法・排痰で用いる徒手的手技） まとめ 中間試験
9	呼吸理学療法基本手技（呼吸困難改善の為の手技）
10	呼吸理学療法基本手技（運動療法）
11	酸素療法と呼吸理学療法
12	人工呼吸療法と呼吸理学療法
13	在宅酸素療法（目的、使用器具、ウィーニング）
14	疾患別呼吸理学療法（急性呼吸不全、慢性呼吸不全）
15	胸部画像の見方 喀痰の吸引

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		令和 7年度		PT学科			
授業科目名	各論理学療法Ⅷ					担当者名		大渡 凡人、峰 剛樹				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数	0	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									30			
授業概要	循環器疾患の特徴・基礎にはじまり、理学療法を行う上での注意事項、実際の理学療法の進め方、運動療法の実際を学習する。それぞれの疾患において必要なスパイロメータや心電図の知識、リスク管理なども合わせて学ぶ。											
到達目標	①循環器疾患の特徴・基礎にはじまり、理学療法を行う上での注意事項、実際の理学療法の進め方、運動療法の実際を理解できる。 それぞれの疾患において必要なスパイロメータや心電図の知識、リスク管理などを説明できる。											
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。											
その他	峰剛樹（病院理学療法科において理学療法士として勤務）、大渡凡人（実務経験有）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	最新理学療法講座 内部障害理学療法学	高橋 哲也	医歯薬出版
参考図書	病気がみえるvol.2 循環器 第4版	医療情報科学研究所	医療情報科学研究所

回数	授 業 計 画
1	循環器系の解剖・生理学 慢性心不全①（峰）
2	慢性心不全②（峰）
3	慢性心不全③（峰）
4	循環器理学療法の評価「リスク層別化」（峰）
5	循環器理学療法の評価「リスク層別化」（峰）
6	循環器理学療法の実際（峰）
7	循環器理学療法の実際（峰）
8	運動はなぜ必要なのか？ インターバルトレーニング 循環器疾患患者の社会復帰（峰）
9	心電図の診かた（大渡）
10	心電図の診かた（大渡）
11	虚血性心疾患の病態・検査と治療（大渡）
12	虚血性心疾患の病態・検査と治療（大渡）
13	心臓弁膜症と大動脈疾患の病態・検査と治療（大渡）
14	心臓弁膜症と大動脈疾患の病態・検査と治療（大渡）
15	心臓弁膜症と大動脈疾患の病態・検査と治療（大渡）

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	各論理学療法Ⅸ					担当者名		中山 大貴			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	0	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									30		
授業概要	代謝機能の特徴・基礎にはじまり、理学療法を行う上での注意事項、実際の理学療法の進め方、運動療法の実践を学習する。										
到達目標	①代謝機能の基礎的知識を理解し、理学療法の実践におけるリスク管理や注意点を説明できる。 ②代謝に関わる疾患や状態に対する理学療法の進め方や運動療法の実施方法を具体的に説明し、症例に応じた対応ができる。										
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。										
その他	中山大貴（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	特になし(教員が資料を作成し配布します)		
参考図書	病気がみえる③ 糖尿病・代謝・内分泌 第5版	医療情報科学研究所	医療情報科学研究所

回数	授 業 計 画
1	エネルギー代謝と栄養
2	エネルギー供給系およびATP産生の原料となる栄養基質と代謝
3	基礎代謝とは（運動と栄養代謝） 8）脂質の働き 9）タンパク質の働き
4	肝臓と代謝
5	3 大栄養素と代謝①
6	3 大栄養素と代謝②
7	血糖とインスリン
8	小テスト
9	糖尿病の病態・検査と治療
10	糖尿病の合併症と治療
11	急性合併症および慢性合併症
12	1・2型糖尿病で増えている糖尿病昏睡
13	糖尿病患者における運動療法の効果
14	肥満・メタボリックシンドロームの病態・検査と治療
15	浮腫について

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	総合理学療法					担当者名		清水 圭悟、早川 智之、藤田 慎矢、柿原 聡隆、畑田 桜、峰 剛樹			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	2	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									120		
授業概要	臨床現場での実習に対応するにあたり、事前に仮想事例を想定した症例の評価から治療の実施までの臨床思考を構築する。具体的には、整形外科疾患、中枢神経疾患、神経難病、循環器・呼吸器疾患などの代表的な仮想事例情報から必要な評価の選択とその実施を行い、その評価結果、ICFに基づく問題点の抽出、治療目標の設定、治療内容の各々の関連性の構築を図る。										
到達目標	①仮想事例を想定した症例の評価から治療の実施までの臨床思考を構築し、説明できる。 ②整形外科疾患、中枢神経疾患、神経難病、循環器・呼吸器疾患などの代表的な仮想事例情報から必要な評価の選択とその実施を行い、その評価結果、ICFに基づく問題点の抽出、治療目標の設定、治療内容の各々の関連性の構築し、説明できる。										
成績評価	評価の基準：臨床実習に向けての臨床的思考が構築できていること。評価の方法：レポート及び抄録の内容で評価する他に口頭試問、実技試験を行う。 その他：実習前評価（11/1）、実習後評価（11/29）で確認する内容にもなります。										
その他	清水圭悟、早川智之、藤田慎矢、柿原聡隆、畑田桜、峰剛樹（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	臨床実習指導要綱		
参考図書	理学療法臨床思考 第2版 基本編・実践編	有馬 慶美、松本 直人	文光堂

回数	授 業 計 画
1	オリエンテーション 総合理学療法の科目特性、目的・到達目標、授業の流れ・概要、成績評価についての説明
2	文献抄読、レポート作成、抄録作成の方法①
3	文献抄読、レポート作成、抄録作成の方法②
4	文献抄読、レポート作成、抄録作成の方法③
5	①仮想事例として提示した情報を基にICF概念図の推察し、評価項目、収集すべき情報の列挙（整形外科疾患：変形性膝関節症P. 22～31）
6	②①で列挙した項目に対して、仮想事例の追加情報を提示し、その情報を基にICFにて問題点抽出（整形外科疾患：変形性膝関節症P. 22～31）
7	③②でICFにて問題点抽出した内容を基にゴール設定、治療アプローチの検討及び列挙（整形外科疾患：変形性膝関節症P. 22～31）
8	④仮想事例に対する評価、治療アプローチ実技（整形外科疾患：変形性膝関節症P. 22～31）
9	①仮想事例として提示した情報を基にICF概念図の推察し、評価項目、収集すべき情報の列挙（整形外科疾患：上腕骨近位端骨折P. 2～11）
10	②①で列挙した項目に対して、仮想事例の追加情報を提示し、その情報を基にICFにて問題点抽出（整形外科疾患：上腕骨近位端骨折P. 2～11）
11	③②でICFにて問題点抽出した内容を基にゴール設定、治療アプローチの検討及び列挙（整形外科疾患：上腕骨近位端骨折P. 2～11）
12	④仮想事例に対する評価、治療アプローチ実技（整形外科疾患：上腕骨近位端骨折P. 2～11）
13	①仮想事例として提示した情報を基にICF概念図の推察し、評価項目、収集すべき情報の列挙（整形外科疾患：変形性股関節症P. 32～42）
14	②①で列挙した項目に対して、仮想事例の追加情報を提示し、その情報を基にICFにて問題点抽出（整形外科疾患：変形性股関節症P. 32～42） 清水
15	③②でICFにて問題点抽出した内容を基にゴール設定、治療アプローチの検討及び列挙（整形外科疾患：変形性股関節症P. 32～42） 清水
16	④仮想事例に対する評価、治療アプローチ実技（整形外科疾患：変形性股関節症P. 32～42） 清水

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 PT学科					
			○	令和 7年度					
授業科目名	総合理学療法			担当者名	清水 圭悟、早川 智之、藤田 慎矢、柿原 聡隆、畑田 桜、峰 剛樹				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期
								120	

回数	授 業 計 画
17	①仮想事例として提示した情報を基にICF概念図を推察し、評価項目、収集すべき情報の列挙（整形外科疾患：腰椎椎間板ヘルニアP. 54～63）
18	②①で列挙した項目に対して、仮想事例の追加情報を提示し、その情報を基にICFにて問題点抽出（整形外科疾患：腰椎椎間板ヘルニアP. 54～63）
19	③②でICFにて問題点抽出した内容を基にゴール設定、治療アプローチの検討及び列挙（整形外科疾患：腰椎椎間板ヘルニアP. 54～63）
20	④仮想事例に対する評価、治療アプローチ実技（整形外科疾患：腰椎椎間板ヘルニアP. 54～63）
21	①仮想事例として提示した情報を基にICF概念図を推察し、評価項目、収集すべき情報の列挙（整形外科疾患：足関節疾患）
22	②①で列挙した項目に対して、仮想事例の追加情報を提示し、その情報を基にICFにて問題点抽出（整形外科疾患：足関節疾患）
23	③②でICFにて問題点抽出した内容を基にゴール設定、治療アプローチの検討及び列挙（整形外科疾患：足関節疾患）
24	④仮想事例に対する評価、治療アプローチ実技（整形外科疾患：足関節疾患）
25	①仮想事例として提示した情報を基にICF概念図を推察し、評価項目、収集すべき情報の列挙（中枢神経疾患：脳血管障害-急性期～回復期）
26	②①で列挙した項目に対して、仮想事例の追加情報を提示し、その情報を基にICFにて問題点抽出（中枢神経疾患：脳血管障害-急性期～回復期）
27	③②でICFにて問題点抽出した内容を基にゴール設定、治療アプローチの検討及び列挙（中枢神経疾患：脳血管障害-急性期～回復期）
28	④仮想事例に対する評価、治療アプローチ実技（中枢神経疾患：脳血管障害-急性期～回復期）
29	①仮想事例として提示した情報を基にICF概念図を推察し、評価項目、収集すべき情報の列挙（中枢神経疾患：脳血管障害-生活期）
30	②①で列挙した項目に対して、仮想事例の追加情報を提示し、その情報を基にICFにて問題点抽出（中枢神経疾患：脳血管障害-生活期）
31	③②でICFにて問題点抽出した内容を基にゴール設定、治療アプローチの検討及び列挙（中枢神経疾患：脳血管障害-生活期）
32	④仮想事例に対する評価、治療アプローチ実施（中枢神経疾患：脳血管障害-生活期）
33	①仮想事例として提示した情報を基にICF概念図を推察し、評価項目、収集すべき情報の列挙（神経難病：パーキンソン病）
34	②①で列挙した項目に対して、仮想事例の追加情報を提示し、その情報を基にICFにて問題点抽出（神経難病：パーキンソン病）
35	③②でICFにて問題点抽出した内容を基にゴール設定、治療アプローチの検討及び列挙（神経難病：パーキンソン病）
36	④仮想事例に対する評価、治療アプローチ実技（神経難病：パーキンソン病）
37	①仮想事例として提示した情報を基にICF概念図を推察し、評価項目、収集すべき情報の列挙（まとめ）
38	②仮想事例として提示した情報を基にICF概念図を推察し、評価項目、収集すべき情報の列挙（まとめ）
39	③仮想事例として提示した情報を基にICF概念図を推察し、評価項目、収集すべき情報の列挙（まとめ）
40	④仮想事例として提示した情報を基にICF概念図を推察し、評価項目、収集すべき情報の列挙（まとめ）

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 PT学科					
			○	令和 7年度					
授業科目名	総合理学療法					担当者名	清水 圭悟、早川 智之、藤田 慎矢、柿原 聡隆、畑田 桜、峰 剛樹		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2	2			授業時間数	前期	後期	前期	後期
								120	

回数	授 業 計 画
41	①仮想事例として提示した情報を基にICF概念図を推察し、評価項目、収集すべき情報の列挙（循環器疾患：慢性心不全）
42	②①で列挙した項目に対して、仮想事例の追加情報を提示し、その情報を基にICFにて問題点抽出（循環器疾患：慢性心不全）
43	③②でICFにて問題点抽出した内容を基にゴール設定、治療アプローチの検討及び列挙（循環器疾患：慢性心不全）
44	④仮想事例に対する評価、治療アプローチ実技（循環器疾患：慢性心不全）
45	①仮想事例として提示した情報を基にICF概念図を推察し、評価項目、収集すべき情報の列挙（呼吸器疾患：慢性閉塞性肺疾患）
46	②①で列挙した項目に対して、仮想事例の追加情報を提示し、その情報を基にICFにて問題点抽出（呼吸器疾患：慢性閉塞性肺疾患）
47	③②でICFにて問題点抽出した内容を基にゴール設定、治療アプローチの検討及び列挙（呼吸器疾患：慢性閉塞性肺疾患）
48	④仮想事例に対する評価、治療アプローチ実技（呼吸器疾患：慢性閉塞性肺疾患）
49	①仮想事例として提示した情報を基にICF概念図を推察し、評価項目、収集すべき情報の列挙（整形外科疾患：膝前十字靭帯損傷）
50	②①で列挙した項目に対して、仮想事例の追加情報を提示し、その情報を基にICFにて問題点抽出（整形外科疾患：膝前十字靭帯損傷）
51	③②でICFにて問題点抽出した内容を基にゴール設定、治療アプローチの検討及び列挙（整形外科疾患：膝前十字靭帯損傷）
52	④仮想事例に対する評価、治療アプローチ実技（整形外科疾患：膝前十字靭帯損傷）
53	①仮想事例として提示した情報を基にICF概念図を推察し、評価項目、収集すべき情報の列挙（整形外科疾患：末梢神経障害-総腓骨神経麻痺）
54	②①で列挙した項目に対して、仮想事例の追加情報を提示し、その情報を基にICFにて問題点抽出（整形外科疾患：末梢神経障害-総腓骨神経麻痺）
55	③②でICFにて問題点抽出した内容を基にゴール設定、治療アプローチの検討及び列挙（整形外科疾患：末梢神経障害-総腓骨神経麻痺）
56	④仮想事例に対する評価、治療アプローチ実技（整形外科疾患：末梢神経障害-総腓骨神経麻痺）
57	各事例における臨床推論の口頭試問の確認 まとめ
58	各事例における臨床推論の口頭試問の確認 まとめ
59	各事例における臨床推論の口頭試問の確認 まとめ
60	各事例における臨床推論の口頭試問の確認 まとめ

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		令和 7年度		PT学科			
授業科目名	基礎医学演習					担当者名		早川 智之、峰 剛樹、畑田 桜、中山 大貴、清水 圭悟、柿原 聡隆				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等		1年次		2年次		3年次	
単位数	1	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
											60	
授業概要	これまでに学習してきた知識（基礎医学）を整理する。グループ学習などを積極的に取り入れ、幅広い知識を共有することを目指す。											
到達目標	①基礎医学としての脳の解剖、局在機能、感覚器の機能について説明できる。 ②基礎医学としての四肢の解剖及び機能について説明できる。											
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。											
その他	早川智之、峰剛樹、柿原聡隆、畑田桜、中山大貴、清水圭悟（病院理学療法科において理学療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	PT/OT国家試験必修ポイント2025専門基礎分野基礎医学	医歯薬出版編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	全身の動脈 脳の動脈①
2	全身の動脈 脳の動脈② ペア学習
3	呼吸器の解剖 肺気量分画①
4	呼吸器の解剖 肺気量分画② ペア学習
5	1-4まとめテスト ホルモンとその作用 ペア学習
6	脳解剖（大脳皮質の機能局在 前額面断 水平面断 矢状面断 ブロードマンの脳地図）①
7	脳解剖（大脳皮質の機能局在 前額面断 水平面断 矢状面断 ブロードマンの脳地図）② ペア学習
8	脳解剖（大脳皮質の機能局在 前額面断 水平面断 矢状面断 ブロードマンの脳地図）③ ペア学習
9	腕・腰・仙神経叢 単シナプス反射①
10	腕・腰・仙神経叢 単シナプス反射② ペア学習
11	6-10まとめテスト および復習
12	視覚器 視覚野伝導路①
13	視覚器 視覚野伝導路② ペア学習
14	関節の形状分類 ペア学習
15	股関節解剖運動①
16	股関節解剖運動② ペア学習

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	令和 7年度	九州医療スポーツ専門学校 PT学科				
					○						
授業科目名	基礎医学演習					担当者名	早川 智之、峰 剛樹、畑田 桜、中山 大貴、清水 圭悟、柿原 聡隆				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次		3年次		
単位数	1	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期

[illegible]

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	臨床医学演習					担当者名		早川 智之、峰 剛樹、畑田 桜、中山 大貴、清水 圭悟、柿原 聡隆			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
授業概要	これまでに学習してきた知識（臨床医学）を整理する。グループ学習などを積極的に取り入れ、幅広い知識を共有することを目指す。										
到達目標	①これまでに学習した臨床医学の知識を整理・統合し、疾患の理解や理学療法との関連性について説明できる。 ②グループ学習を通じて多様な視点からの情報共有を行い、臨床医学に関する知識の深化と他者への説明力を身につける。										
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。										
その他	早川智之、峰剛樹、柿原聡隆、畑田桜、中山大貴、清水圭悟（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	PT/OT国家試験必修ポイント2025専門基礎分野臨床医学	白石泰夫	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	急性炎症と慢性炎症 良性腫瘍と悪性腫瘍 ①
2	急性炎症と慢性炎症 良性腫瘍と悪性腫瘍 ② ペア学習
3	アレルギーの分類
4	1-3まとめテスト 及び復習
5	糖尿病①
6	糖尿病② ペア学習
7	拘束性換気障害と閉塞性換気障害（疾患、分類）①
8	拘束性換気障害と閉塞性換気障害（疾患、分類）② ペア学習
9	アシドーシスとアルカローシス① ペア学習
10	アシドーシスとアルカローシス② ペア学習
11	5-10まとめテスト 及び復習
12	内分泌異常①
13	内分泌異常② ペア学習
14	12・13まとめテスト
15	骨折の特徴①
16	骨折の特徴② ペア学習

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	令和 7年度	九州医療スポーツ専門学校				
					○		PT学科				
授業科目名	臨床医学演習					担当者名	早川 智之、峰 剛樹、畑田 桜、中山 大貴、清水 圭悟、柿原 聡隆				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次		3年次		
単位数	1	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期

[illegible]

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	基礎理学療法演習					担当者名		早川 智之、峰 剛樹、畑田 桜、中山 大貴、清水 圭悟、柿原 聡隆			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											60
授業概要	これまでに学習してきた知識（臨床医学）を整理する。グループ学習などを積極的に取り入れ、幅広い知識を共有することを目指す。										
到達目標	①理学療法評価について各検査測定方法の意義を説明できる。 ②各種疾患に対する理学療法評価の方法、リスク管理含めた実施について説明できる。										
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。										
その他	早川智之、峰剛樹、柿原聡隆、畑田桜、中山大貴、清水圭悟（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	PT/OT国家試験必修ポイント2025基礎PT学	白石泰夫	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	基礎理学療法学 臨床運動学
2	基礎理学療法学 臨床運動学
3	基礎理学療法学 臨床運動学 ペア学習
4	基礎理学療法学 基本・基礎
5	基礎理学療法学 基本・基礎 ペア学習
6	基礎理学療法学 法律・制度 その他
7	基礎理学療法学 法律・制度 その他 ペア学習
8	理学療法評価学 徒手筋力テスト
9	理学療法評価学 徒手筋力テスト ペア学習
10	理学療法評価学 関節可動域検査
11	理学療法評価学 関節可動域検査 ペア学習
12	理学療法評価学 整形外科テスト
13	理学療法評価学 整形外科テスト ペア学習
14	理学療法評価学 バランス機能
15	理学療法評価学 バランス機能 ペア学習
16	理学療法評価学 運動系評価

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	令和 7年度	九州医療スポーツ専門学校				
					○		PT学科				
授業科目名	基礎理学療法演習					担当者名	早川 智之、峰 剛樹、畑田 桜、中山 大貴、清水 圭悟、柿原 聡隆				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次		3年次		
単位数	1	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期

[illegible]

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	臨床理学療法演習					担当者名		早川 智之、峰 剛樹、畑田 桜、中山 大貴、清水 圭悟、柿原 聡隆			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											60
授業概要	これまでに学習してきた知識（臨床理学療法）を整理する。グループ学習などを積極的に取り入れ、幅広い知識を共有することを目指す。										
到達目標	①理学療法治療の目的と効果を説明できる。 ②各種疾患に対する理学療法治療の方法、リスク管理含めた実施について説明できる。										
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。										
その他	早川智之、峰剛樹、柿原聡隆、畑田桜、中山大貴、清水圭悟（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	PT/OT国家試験必修ポイント2025障害別PT治療学	医歯薬出版編	医歯薬出版
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	理学療法治療学 中枢神経障害（脳血管障害）
2	理学療法治療学 中枢神経障害（脳血管障害）ペア学習
3	理学療法治療学 中枢神経障害（脊髄損傷）
4	理学療法治療学 中枢神経障害（脊髄損傷） ペア学習
5	理学療法治療学 中枢神経障害（パーキンソン病）
6	理学療法治療学 中枢神経障害（パーキンソン病） ペア学習
7	理学療法治療学 中枢神経障害（その他）
8	理学療法治療学 中枢神経障害（その他） ペア学習
9	理学療法治療学 内部障害（循環器障害）
10	理学療法治療学 内部障害（循環器障害） ペア学習
11	理学療法治療学 内部障害（呼吸器障害）
12	理学療法治療学 内部障害（呼吸器障害） ペア学習
13	理学療法治療学 内部障害（代謝障害 その他）
14	理学療法治療学 内部障害（代謝障害 その他）ペア学習
15	前半の振り返りとまとめ
16	理学療法治療学 骨関節障害（上肢・下肢・体幹の骨関節障害）

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	臨床理学療法演習					担当者名		早川 智之、峰 剛樹、畑田 桜、中山 大貴、清水 圭悟、柿原 聡隆			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1	1			授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
											60

[illegible]

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	スポーツリハビリテーション					担当者名		藤田 慎矢			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
									15		
授業概要	<p>個々のスポーツを「走る」「飛ぶ」「投げる」の機能運動面から捉え、各々の場面で起こる種目別スポーツ障害の特長を整理し、応急処置（アイシング・包帯固定法）や予防（テーピング・足底板）の実践アプローチなどを学習する。</p>										
到達目標	<p>①スポーツ動作（走る・飛ぶ・投げる）における機能運動の特徴と、それに関連する種目別スポーツ障害の発生要因と特性を説明できる。 ②スポーツ障害に対する応急処置（アイシング・包帯固定）および予防的アプローチ（テーピング・足底板）の基本的手技を理解し、適切に活用できる。</p>										
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。										
その他	藤田 慎矢（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	九州医療スポーツ専門学校 令和 7年度 PT学科					
			○						
授業科目名	地域理学療法学					担当者名	靱井 剛士		
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次	2年次	3年次	
単位数	2				授業時間数	前期	後期	前期	後期
							30		
授業概要	地域を基盤として行われる理学療法士による専門的支援の知識・技術について習得する。家庭訪問による訪問リハビリテーションサービスや、施設における入所、通所リハビリテーションサービスに携わる理学療法士に必要な知識・技術・実施方法を学ぶ。地域理学療法を实践する専門家としての基本的姿勢・態度についても習得する。								
到達目標	①訪問・通所・入所などの地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割と、必要な支援技術・実施方法について理解し、説明できる。 ②地域理学療法を实践するうえで求められる専門職としての基本的姿勢・態度を理解し、対象者や多職種との関わりにおいて適切に行動できる。								
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。								
その他	靱井剛士（病院作業療法科において作業療法士として勤務）								

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学	奈良 勲	医学書院
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	地域リハビリテーションとは
2	地域リハビリテーション活動の基本
3	在宅リハビリテーションと病院内リハビリテーションの考え方
4	地域リハビリテーション活動の時代的流れ
5	制度にみられる地域リハビリテーション
6	機能訓練事業の今後と展開
7	介護保険法と介護予防
8	介護予防の手法とリハビリテーション医療
9	【中間試験】 退院後のリハビリテーション
10	尊厳あるケアの確立に向けて
11	介護期・終末期のリハビリテーション
12	地域リハビリテーションに関わること
13	諸外国の地域リハビリテーション
14	これからの地域リハビリテーション
15	地域包括ケアシステムについて

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	生活環境論					担当者名		畑田 桜			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数	1				授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
								15			
授業概要	リハビリテーションに関わる生活環境を、患者（利用者）を取り巻く生活地域に視点を置いて考える。										
到達目標	①患者（利用者）を取り巻く生活地域におけるリハビリテーションを観点とした生活環境と患者（利用者）との相互作用を説明できる。 ②実際の住宅改修について知識を習得し、住宅改修の一連の流れを理解できる。										
成績評価	課題の提出状況、期末試験の成績にて評価を行う。										
その他	畑田桜（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	生活環境論		神陵文庫
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	生活環境学とは
2	生活環境整備の留意点（障害別によるADL上の障害と自己）
3	関節可動域と日常生活活動
4	バリアフリーの関連諸制度①
5	バリアフリーの関連諸制度②演習による発表
6	住環境についての考え方
7	住環境についての諸制度
8	福祉用具について

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		令和 7年度		PT学科			
授業科目名	見学実習					担当者名		峰 剛樹				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
							40					
授業概要	地域理学療法の場面での経験を通して、地域包括ケアシステム（特に、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション）における理学療法士の役割を理解し、地域包括ケアシステムに関与する関連専門職の役割を理解する。											
到達目標	①地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションの役割を理解し、理学療法士の具体的な関わりを説明できる。 ②地域包括ケアシステムに関与する他の専門職の役割を理解し、多職種連携の重要性を説明できる。											
成績評価	見学実習前後の評価及び臨床実習指導者の評価などで総合的に判断する。											
その他	峰剛樹（病院理学療法科において理学療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書	なし		
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	通所・訪問リハビリテーション施設における理学療法士の役割りと機能① （対象者（障害者及び高齢者）に対する理学療法士における実践の見学）
2	通所・訪問リハビリテーション施設における理学療法士の役割りと機能② （対象者（障害者及び高齢者）に対する理学療法士における実践の見学）
3	通所・訪問リハビリテーション施設における理学療法士の役割りと機能③ （対象者（障害者及び高齢者）に対する理学療法士における実践の見学）
4	通所・訪問リハビリテーション施設における理学療法士の役割りと機能④ （対象者（障害者及び高齢者）に対する理学療法士における実践の見学）
5	対象者とのコミュニケーション技術について①
6	対象者とのコミュニケーション技術について②
7	対象者とのコミュニケーション技術について③
8	対象者とのコミュニケーション技術について④
9	地域における通所・訪問リハビリテーションの役割り① 対象者のニーズの把握
10	地域における通所・訪問リハビリテーションの役割り② 対象者のニーズの把握
11	地域における通所・訪問リハビリテーションの役割り③ 対象者のニーズの把握
12	地域における通所・訪問リハビリテーションの役割り④ 対象者のニーズの把握
13	対象者との関わり（理学療法士としての関わりの実践）①
14	対象者との関わり（理学療法士としての関わりの実践）②
15	対象者との関わり（理学療法士としての関わりの実践）③
16	対象者との関わり（理学療法士としての関わりの実践）④

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	見学実習					担当者名		峰 剛樹			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				1	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
							40				

[illegible]

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野		九州医療スポーツ専門学校					
					○		令和 7年度		PT学科			
授業科目名	評価実習					担当者名		清水 圭悟				
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次		
単位数				4	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
									160			
授業概要	2 年次までに学んだ理学療法・作業療法の検査を適切に実施でき、その結果の解釈を中心に、実習指導者の指導を仰ぎながら実際の患者にそれを応用し、実際の知識技術として体得する。また、検査測定技術のみにとらわれすぎではなく、評価を通して、全体としての患者像を理解できるようにする。											
到達目標	①理学療法検査を適切に実施できる。 ②結果の解釈を中心に、実習指導者の指導を仰ぎながら実際の患者にそれを応用し、実際の知識技術として実践できる。 ③検査測定技術だけにとらわれず、評価を通して、全体としての患者像を理解できる。											
成績評価	評価の基準：見学実習に必要な資質や知識，マナーを身につける。 評価の方法：臨床実習指導者の評価などで総合的に判断する。											
その他	清水圭悟（病院理学療法科において理学療法士として勤務）											

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	実習指導要綱参照
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目区分	基礎分野		専門基礎分野		専門分野	九州医療スポーツ専門学校					
					○	令和 7年度		PT学科			
授業科目名	総合臨床実習					担当者名		早川 智之			
授業形態	講義	演習	実技	実習	履修年次等	1年次		2年次		3年次	
単位数				18	授業時間数	前期	後期	前期	後期	前期	後期
										720	
授業概要	理学療法・作業療法についての知識・技能の学習の総決算として、実習指導者の指導のもとにこれらを応用し、評価・治療計画・治療という一連の理学療法・作業療法過程を実施し、ならびにそのために必要な記録・報告ができるようにする。また、理学療法・作業療法部門の管理・運営に関する基本的事項についての自分の意見を持ち、医療専門職として責任ある態度・行動を取れるようになることを目的とする。										
到達目標	①評価・治療計画・治療という一連の理学療法過程を実施し、ならびにそのために必要な記録・報告ができる。 ②理学療法・作業療法部門の管理・運営に関する基本的事項について医療専門職として責任ある態度・行動を取ることの重要性を理解できる。										
成績評価	評価の基準：見学実習に必要な資質や知識、マナーを身につける。 評価の方法：臨床実習指導者の評価などで総合的に判断する。										
その他	早川智之（病院理学療法科において理学療法士として勤務）										

使用教材	書 籍 名	著 者 名	出版社名
教科書			
参考図書			

回数	授 業 計 画
1	臨床実習指導要綱参照
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	